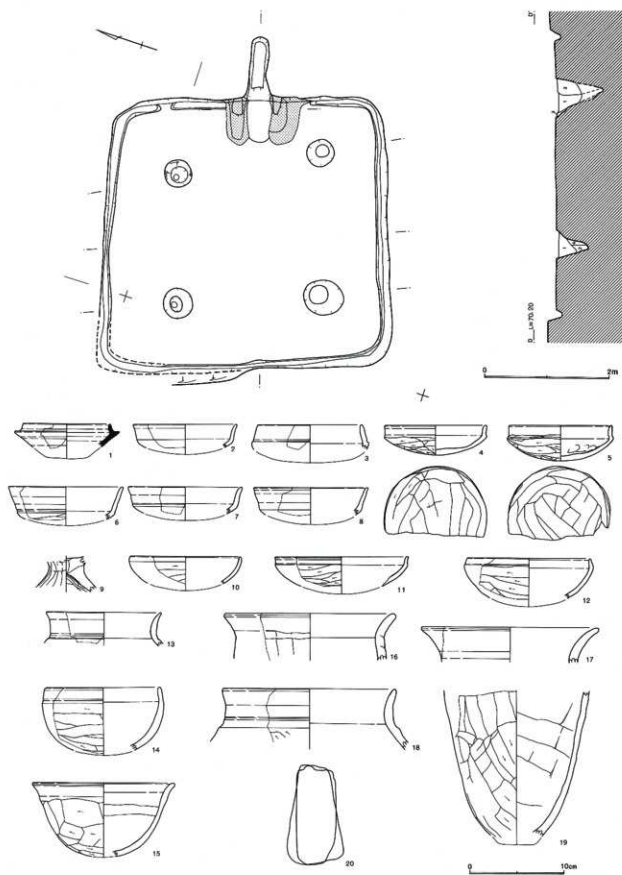


第117図 第58号住居跡(2)・出土遺物



燃焼部底面は良く焼けており、焚き口にかけて楕円形状に掘り込まれる。規模は0.92×0.46m、深さ0.28mを測る。奥壁から段をなし煙道部へ移行する。

煙道部の規模は0.81×0.29m、深さ0.10mを測る。袖部はカマド壁をほとんど掘り込まず、暗褐色土と灰褐色粘土で主に構築されている。

図示したものの以外の出土土器の総破片点数は、494

点である。

杯形土器は口縁部が50点、体部が95点。鉢形土器口縁部が1点。甕形土器は口縁部が18点、胴部が318点、底部が5点。高環形土器は脚部が7点出土している。

土器以外では編物石が図示した2個体、貝果穴底泥岩が2個体、(総重量6.14g)が出土している。

第58号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵環	(9.5)	(3.8)		F1	A	I	10	埋土	ロクロ右?同転
2	環	(11.2)	(3.3)		A1	A	C	10	埋土	口縁外反、稜部ヨコナテ+寛削り、摩滅顯著
3	環	(11.3)	(4.1)		A1	A	A	10	埋土	口縁部内傾、稜部ヨコナテ+寛削り
4	環	10.6	3.3		CD1	A	C	60	カマド	口唇やや肥厚、稜部ヨコナテ+寛削り
5	環	10.8	3.7		C1	A	A	60	カマド、No 2	口唇やや肥厚、稜部棒状工具+寛削り
6	環	(12.2)	(4.2)		C1	A	F	10	埋土	口唇肥厚段部ヨコナテ稜部ヨコナテ+寛削り
7	環	(12.2)	(3.7)		AC1	A	E	10	埋土	口縁外反、稜部ヨコナテ+寛削り
8	環	(12.2)	(4.0)		A1	B	C	10	埋土	口縁外傾、稜部棒状工具+寛削り、摩滅顯著
9	高環		(4.0)		A1	A	B	60	埋土	低脚?
10	環	(12.0)	(3.7)		A1	B	C	10	埋土	口縁小さく直立、稜部ヨコナテ+寛削り
11	環	(14.2)	(4.0)		A1	A	C	20	埋土	口縁直立口唇肥厚、稜部ヨコナテ+寛削り
12	環	(13.3)	(5.2)		A1	A	B	20	埋土	口縁短く直立、稜部ヨコナテ+寛削り
13	小形壺	(12.3)	(3.5)		A1	B	C	10	埋土	頸部段をなす、摩滅顯著
14	壺	(12.3)	(7.3)		A1	A	B	20	埋土	口縁内湾、稜部ヨコナテ+寛削り
15	鉢	15.0	(7.7)		CD2	A	F	25	No 1	口縁外反、稜部ヨコナテ+寛削り
16	甕	(18.4)	(5.0)		AE5	B	B	10	埋土	口縁外反、頸部以下縦寛削り
17	甕	19.0	(3.8)		AE2	A	B	10	埋土	口縁部僅かに内曲
18	壺	(16.0)	(6.0)		AE5	A	E	10	埋土	頸部段をなし以下横寛削り
19	甕胴部		(16.5)	4.0	F2	A	A	20	埋土	器肉薄、外面斜め寛削り

第59号住居跡 (第118、119図)

本住居跡はK3I11グリッド付近に位置する。

新旧関係は、本住居跡が南半部で第58、66号住居跡を切る。

平面形は東、西壁がやや歪むがほぼ方形で、規模は4.99×4.67m、深さ26cmを測る。

主軸方位はN-6.5°-Wを測り、カマド軸はN-Sで若干ずれる。

床面は全体に硬質でほぼ平坦である。掘り方、貼り床は存在せず地山直上が床面である。

床面出土遺物は中央部から西寄りP1P2付近と、カ

マド左袖周辺部に比較的集中している。大形の河原石がP2の東側で出土している。第66号住居跡との重複部分では多量の炭化物が出土しているが、壁溝上から敷き物状の炭化物が出土している。

壁は遺存状態が良好でほぼ直立し、掘り込みもしっかりしている。

壁溝はカマド部分を除いて全周する。

柱穴は5本であるが、浅いビットP6が床下から検出されている。P4は柱痕跡が検出された。P1が径24cm、深さ43cm、P2が径41cm、深さ48cm、P3が径32cm、深さ17cm、P4が径48cm、深さ58cm、P5が径48cm、深

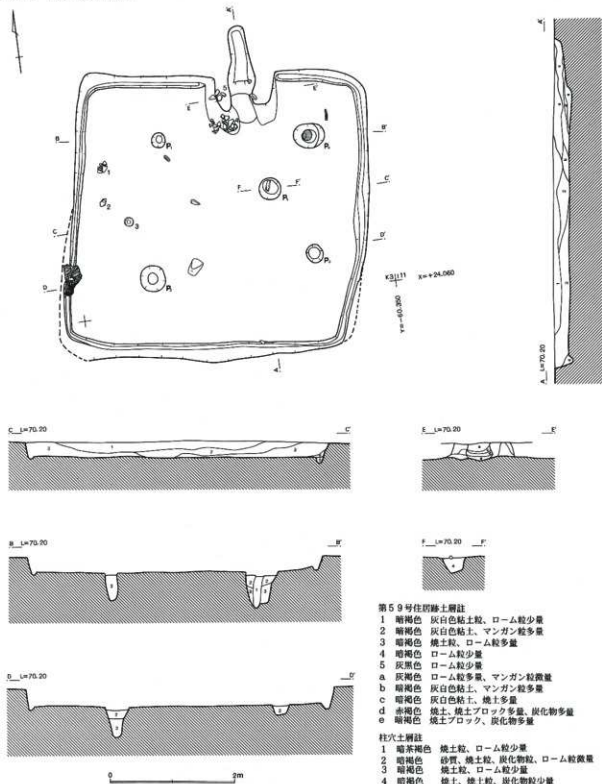
さ24cmを測る。

柱穴配置は、全体にややカマド寄り、P3が北側寄りにずれた台形状である。柱穴間隔はP1P2が2.17

m、P2P3が2.65m、P3P4が1.85m、P1P4が2.24mを測る。貯蔵穴は検出できなかった。

カマドは北壁僅かに東寄りに設置され、遺存状態は

第118図 第59号住居跡(1)



良好である。

燃焼部底面は比較的焼けており、焚き口にかけて楕円形状に僅かに掘り込まれる。規模は0.80×0.43m、深さ0.30mを測る。奥壁から僅かに段をなし煙道部へ移行する。

煙道部は緩やかに壁外に向かって立ち上がる。規模は0.88×0.25m、深さ0.45mを測る。

袖部はカマド壁を掘り込まず、左袖の壁際は大型のビット（径40cm）が掘り込まれる。両袖とも暗褐色土の基部に暗灰褐色粘土を貼りつけて構築されている。

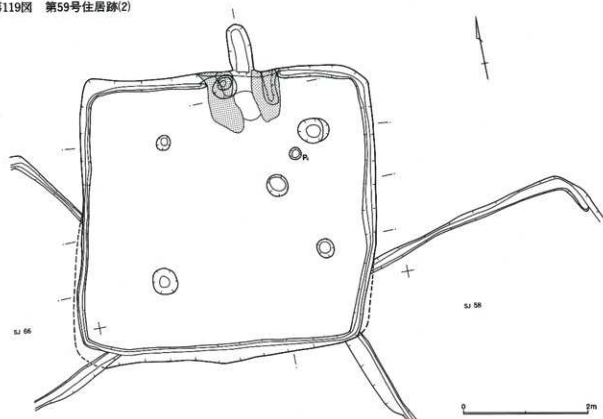
出土遺物は土師器環形土器、椀形土器、鉢形土器、

高環形土器、甕形土器等が出土している。須恵器は埋土中の出土である。

図示した以外の総破数は514点で環形土器388点、鉢形土器7点、高環形土器7点、甕形土器が112点である。土器以外では編物石が図示した7個体、やや大形の土鍾1個体が出土している。

環形土器は、口径13cm前後の口縁部が外反するものと、同じく有段口縁状になるものが主体をなす。やや小形の口径12cm前後の口縁部が外反するものが伴う。体部が浅く皿状で、口唇部に沈線を持つ環形土器も存在する。高環脚部は長脚のものである。

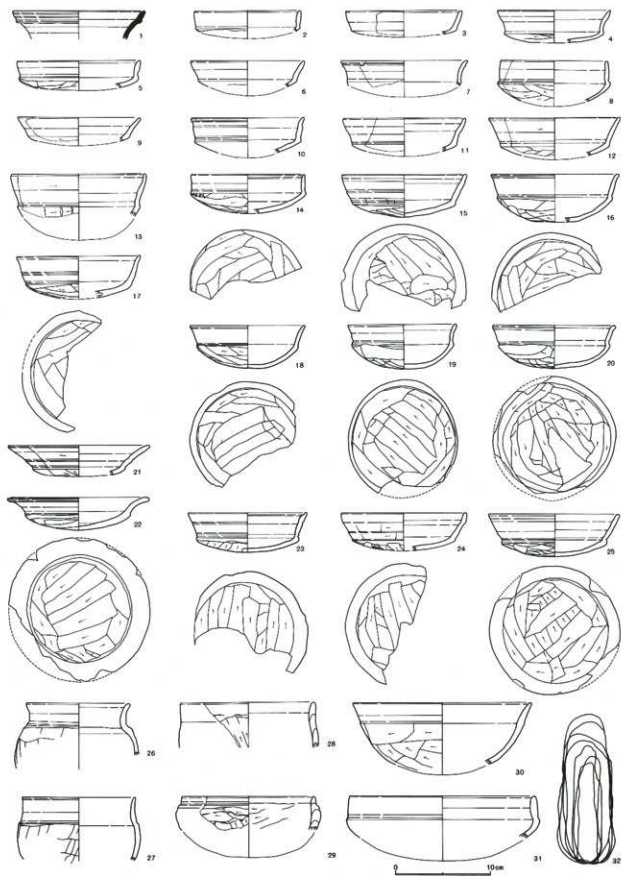
第119図 第59号住居跡(2)



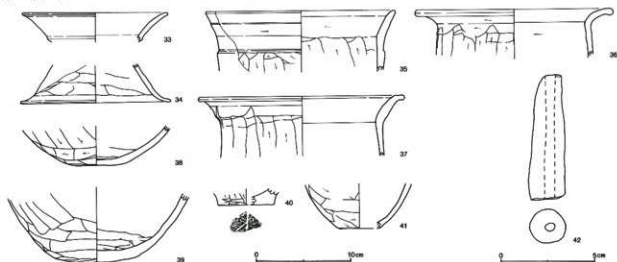
第59号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器	14.0	(3.0)		D1	A	H	30	埋土+SJ58	凸帯貼付け
2	環	11.5	(3.0)		AC1	A	E	40	埋土	口縁直立、稜部棒状工具+篋削り、摩滅顕著
3	環	(12.3)	(2.8)		C1	B	E	10	埋土	器内薄い、稜部ヨコナデ+篋削り、摩滅顕著
4	環	(12.0)	(3.4)		A1	B	C	30	カマド	口縁内湾、稜部ヨコナデ+篋削り、摩滅顕著
5	環	13.2	(3.2)		C1	A	I	25	No.4	口唇凹線、稜部ヨコナデ+篋削り
6	環	(12.0)	(2.9)		A1	B	C	25	埋土	口唇凹線、稜部棒状工具+篋削り、二次加熱

第120图 第59号住居跡出土遺物(1)



第121図 第59号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
7	環	(13.6)	(3.9)		A1	B	C	10	埋土	口唇肥厚、稜部コナテ+寛削り
8	環	(11.3)	(4.3)		AC1	A	B	25	埋土	口縁直立、稜部コナテ+寛削り
9	環	(13.0)	(3.0)		A1	A	C	20	No.4	口縁外反、稜部コナテ+寛削り
10	環	12.0	(3.85)		A1	A	C	25	埋土	口唇肥厚段部工具ナテ稜部棒状工具+寛削り
11	環	(13.2)	(4.0)		A1	A	C	10	埋土	口縁内湾、稜部コナテ+寛削り、摩滅顯著
12	環	(14.0)	(4.4)		A1	A	B	10	埋土	口唇やや肥厚、稜部工具ナテ+寛削り
13	環	(14.3)	(7.1)		A1	B	C	20	埋土	砂質、口縁内湾、稜部コナテ+寛削り
14	環	12.0	(3.8)		C1	A	A	40	埋土	口唇沈線、稜部工具ナテ?+寛削り
15	環	13.4	4.6		C1	A	A	50	埋土	口唇内湾段部棒状工具稜部棒状工具+寛削り
16	環	13.4	(5.1)		A1	B	E	40	埋土	口唇肥厚、稜部棒状工具+寛削り
17	環	13.0	(4.4)		C1	A	A	40	埋土	段部棒状工具ナテ、稜部棒状工具+寛削り
18	環	12.2	4.6		A1	A	B	60	埋土	口唇やや肥厚、稜部コナテ?+寛削り
19	環	11.8	4.8		A1	A	C	80	埋土	口縁工具ナテ、稜部棒状工具+寛削り
20	環	13.0	4.6		A1	A	E	80	埋土	口唇肥厚、稜部コナテ+寛削り
21	環	(15.2)	(3.3)		A1	A	A	10	埋土	段部棒状工具、稜部棒状工具+寛削り
22	皿	15.2	3.5		C1	A	A	80	No.3	口唇外反凹縁、稜部棒状工具+寛削り
23	環	12.4	4.2		C1	A	E	60	埋土	口唇沈線段部棒状工具稜部棒状工具+寛削り
24	環	13.2	(4.0)		A1	A	A	50	埋土	段部工具ナテ、稜部工具ナテ+寛削り
25	環	14.0	4.6		C1	A	A	90	埋土	段部工具ナテ、稜部工具ナテ+寛削り
26	小形壺	11.2	(7.0)		A1	A	B	80	埋土	口縁部外反、頸部横寛削り
27	小形壺	12.0	(7.0)		A1	A	B	25	埋土	口唇やや肥厚、頸部横寛削り
28	小形甕	(14.4)	(5.0)		E4	A	E	10	埋土	口縁コナテ、頸部以下縦削り
29	環	(14.2)	(6.7)		AE2	A	B	10	埋土	器内厚い、肩部コナテ(含未調)+寛削り
30	鉢	19.0	(7.0)		CE1	A	E	20	No.4	口縁工具ナテ、稜部工具ナテ+寛削り、摩滅
31	環	19.6	(4.5)		C1	B	I	40	埋土	口縁直立、稜部コナテ?+寛削り、摩滅
33	高環	15.3	(3.1)		A1	A	B	70	埋土	口縁部外反、段部コナテ、以下寛削り
34	高環脚部		(4.0)	16.0	A1	A	C	20	埋土	裾部短い、器内厚い
35	甕	(20.3)	(6.5)		C1	B	E	10	埋土	頸部以下縦、斜削り
36	甕	21.2	(5.0)		A1	A	B	30	埋土	口縁大きく外反口唇肥厚、頸部以下縦削り
37	甕	21.8	(6.3)		AD2	A	E	25	埋土	口縁外反、頸部縦削りによる段
38	甕底部	(4.2)	6.0		AE5	A	E	80	No.2	摩滅顯著、底面寛削り?
39	甕底部	(7.6)	9.0		A1	A	B	60	No.1, S166と接合	やや大形丸底、底面寛削り
40	甕底部	(1.8)	(6.0)		A1	A	F	10	埋土	平底、底面木葉底
41	甕底部	(5.0)	(4.5)		AC1	A	E	60	カマフ、No.4	器内厚い、底面寛削り
42	土 錘	長さ(6.6)×最大径1.9×孔径0.5(cm)、重量20.8g								

第66号住居跡 (第122、124図)

本住居跡は K3I10 グリッド付近に位置する。

新田関係は、本住居跡カマド部分が第58号住居跡によって切られる。

平面形は南、北壁がほぼ中央部で屈折気味の平行四辺形状、乃至不整形である。規模は4.08×4.02m、深さ26cmを測る。

主軸方位は N-64.5°-E を測り、カマド軸は若干

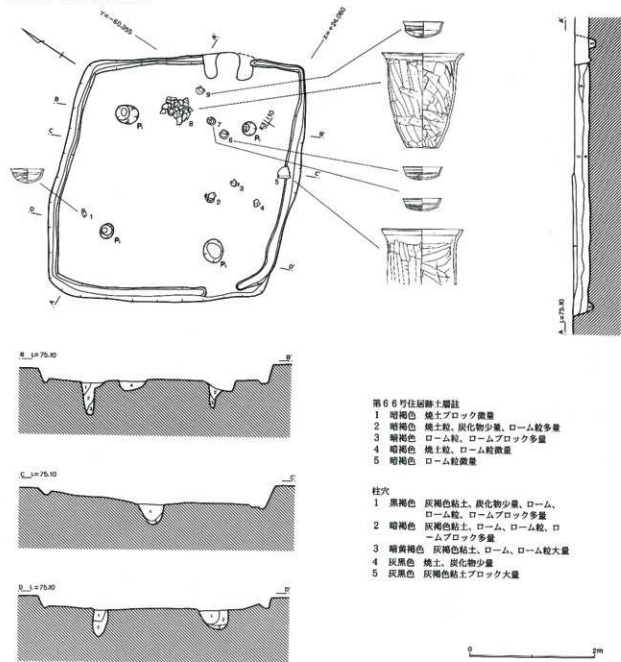
ずれており N-58°-E を測る。

床面は全体にやや柔らかく、一部わずかな傾斜を持つ。掘り方、貼り床は存在せず地山直上の床面である。

床面出土物はカマド左前方の P1P4 間、及び P3P4 間に比較的集中している。大形の河原石が P2 の東側で出土している。カマド付近は多量の炭化物が出土している。

壁はカマド付近以外は遺存状態が比較的良好で、や

第122図 第66号住居跡(1)



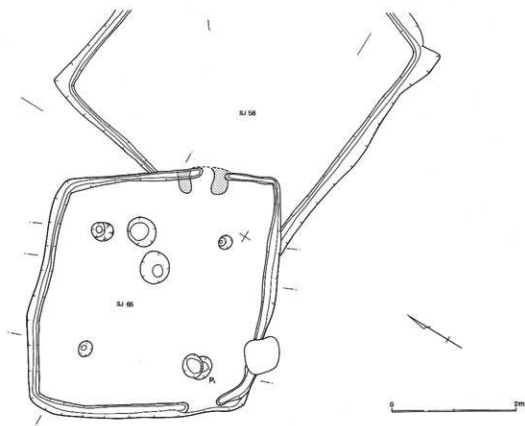
第66号住居跡土層註

- 1 暗褐色 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒、炭化物少量、ローム粒多量
- 3 暗褐色 ローム粒、ロームブロック多量
- 4 暗褐色 焼土粒、ローム粒微量
- 5 暗褐色 ローム粒微量

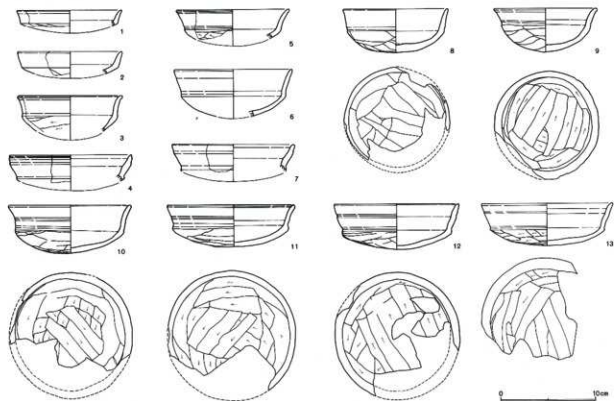
柱穴

- 1 黒褐色 灰褐色粘土、炭化物少量、ローム、ローム粒、ロームブロック多量
- 2 暗褐色 灰褐色粘土、ローム、ローム粒、ロームブロック多量
- 3 暗黄褐色 灰褐色粘土、ローム、ローム粒大量
- 4 灰黑色 焼土、炭化物少量
- 5 灰黑色 灰褐色粘土ブロック大量

第123図 第66号住居跡(2)



第124図 第66号住居跡出土遺物(1)



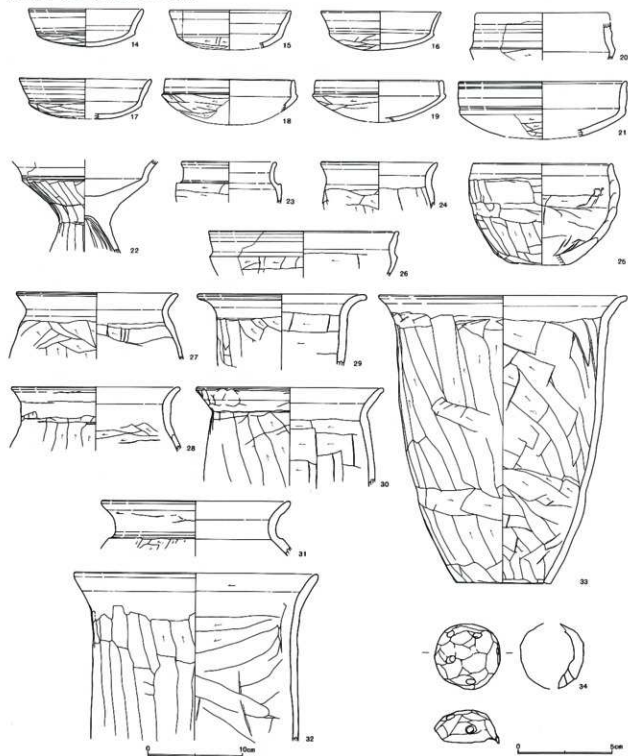
や傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。

壁溝はカマド部分とカマド対壁の相対する部分を除いて全周する。

主柱穴は4本と考えられるが、P3に切られる大形

のP5があり、付け替えと考えられる。その他P1に隣接して大形のピットが2本存在するが、上面から切っており新しい。P1が径30cm、深さ53cm、P2が径20cm、深さ42cm、P3が径32cm、深さ22cm、P4が径22cm、深

第125図 第66号住居跡出土遺物(2)



さ43cm、P5が径34cm、深さ32cmを測る。

柱穴配置は、南北壁に沿って、P3が壁際にややずれるかほぼ方形に配置される。柱穴間隔は P1P2が1.89m、P2P3が1.79m、P3P5が2.00m、P3P5が1.97mを測る。

貯蔵穴は検出できなかった。

カマドは東壁や南寄りに設置され、第58号住居跡との重複で遺存状態は悪く、ほとんど痕跡的である。

燃焼部底面は比較的焼けており、ほぼ平坦。規模は0.43×0.36mを測る。

煙道部は不明である。

袖部は壁溝を埋め戻して構築されている。

出土遺物は土師器環形土器、椀形土器、鉢形土器、高環形土器、甌形土器、甕形土器等が出土している。

図示した以外の総点数は831点で環形土器238点、高環形土器1点、甌形土器1点、甕形土器が591点である。土器以外では鈴形土製品1点が出土している。

環形土器は、口径13cm前後の口縁部が外反するものと、同じく有段口縁状になるものが主体をなす。やや小形で口径12cm前後の口縁部が外反するものが伴うが、体部が浅いものと深いものがある。口縁部が小さく内傾する環形土器は少量である。器内が厚く輪積み痕を残す鉢形土器が特徴的である。大形甌は単孔で口縁部が大きく開くものと、開かないものがある。

第66号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	(11.2)	(2.4)		AC1	A	B	10	埋土	口縁外傾、腰部ヨコナテ+寛削り
2	環	(11.2)	(2.8)		AC1	A	B	10	埋土	口縁外傾、腰部ヨコナテ+寛削り、器内厚い
3	環	(11.2)	(4.7)		A1	A	E	10	埋土	口唇肥厚、腰部ヨコナテ+寛削り、内面黒色
4	環	(13.2)	(3.8)		AD1	B	B	10	埋土	段部ヨコナテ、腰部工具+寛削り、器内厚い
5	環	(12.0)	(3.8)		C1	B	B	10	床面出土	口唇肥厚、腰部棒状工具+寛削り
6	環	12.4	(5.1)		A1	B	C	40	埋土	口唇やや肥厚、腰部ヨコナテ+寛削り
7	環	(13.2)	(4.0)		AD1	B	B	10	埋土	段部ヨコナテ、腰部ヨコナテ+寛削り
8	環	11.3	4.6		A1	A	E	70	Na9	口縁直立、腰部工具ナテ?+寛削り、黒斑
9	環	11.0	4.6		A1	B	E	90	Na1	口唇外反、腰部工具ナテ+寛削り、内面黒色
10	環	13.0	5.1		A1	A	E	60	Na9	口唇やや肥厚段部沈線腰部棒状工具+寛削り
11	環	13.6	4.4		DE2	B	A	80	埋土	口唇沈線、段部沈線、腰部棒状工具+寛削り
12	環	13.3	4.8		C	B	A	70	埋土	口唇平坦、段部沈線、腰部棒状工具+寛削り
13	環	14.0	4.1		AD1	B	B	40	埋土	段部ヨコナテ、腰部棒状工具+寛削り
14	環	12.2	4.0		A1	A	C	80	Na7	口縁内湾段部ヨコナテ腰部棒状工具+寛削り
15	環	(13.0)	(4.2)		AC1	A	E	10	埋土	口縁内湾段部ヨコナテ腰部ヨコナテ+寛削り
16	環	12.6	4.1		A1	A	C	100	埋土	口縁外反、腰部棒状工具+寛削り
17	環	14.0	(4.2)		AC1	B	F	40	埋土	段部ヨコナテ、腰部工具ナテ+寛削り
18	環	13.5	(3.4)		A1	A	A	40	埋土	腰部棒状工具+寛削り
19	環	13.0	(4.6)		C1	B	F	30	埋土	腰部棒状工具+寛削り、摩滅顕著
20	環	(14.3)	(5.1)		D1	A	E	10	埋土	口縁外反段部ヨコナテ腰部ヨコナテ+寛削り
21	環	18.0	(6.1)		C1	A	A	20	柱穴内出土	段部ヨコナテ、腰部ヨコナテ、沈線+寛削り
22	高環		(9.6)		A1	A	C	80	埋土	長脚?腰部棒状工具+寛削り
23	小形壺	10.3	(4.4)		A1	A	C	20	埋土	口縁外反、頸部以下縦寛削り
24	小形甕	12.4	(6.0)		AE2	A	A	50	埋土	口縁屈曲外反、頸部横、斜め寛削り
25	鉢	14.7	10.8		E2	A	A	60	Na2	口縁内傾、腰部横以下縦寛削り、黒斑
26	鉢	(20.2)	(4.7)		DE5	A	A	10	埋土	口縁屈曲、頸部横寛削り
27	甕	17.2	(7.0)		E5	B	B	30	埋土	口縁外反、頸部縦寛削りによる段
28	壺口縁部	18.0	(6.7)		A2	A	B	25	埋土	口縁屈曲外傾、頸部縦寛削りによる段
29	甕	18.2	(7.8)		AE5	A	B	25	埋土	口縁外反、頸部以下縦寛削り
30	甕	20.0	(10.5)		E5	B	B	25	掘り方	口縁外傾、頸部縦寛削りによる段
31	丸甕	(20.0)	(5.0)		CF2	A	A	20	柱穴内出土	口縁外反、頸部横寛削りによる段、器内厚い
32	甌	26.0	(17.8)		A2	A	A	25	Na5	口縁外傾、頸部以下縦寛削り、内面炭化物
33	甌	25.9	30.5		A2	A	A	70	Na8	口縁外反、頸部縦寛削り痕
34	鈴形土製品			10.1	CE1	A	B	50	埋土	半球状、小孔5個、下部寛削り

第69号住居跡 (第126図)

本住居跡は K3H11 グリッド付近に位置する。

条里区麻溝が大半を破壊している。他の住居跡と重複せず、第56、59号住居跡とやや距離を置く。

平面形は破壊が顕著で推定であるが方形をなすと考えられる。規模は4.40×4.11m、深さ23cmを測る。

主軸方位は N-38.5°-W を測る。

掘り方、貼り床は存在せず地山直上か味面である。若干の焼土が西隅部分で出土している。

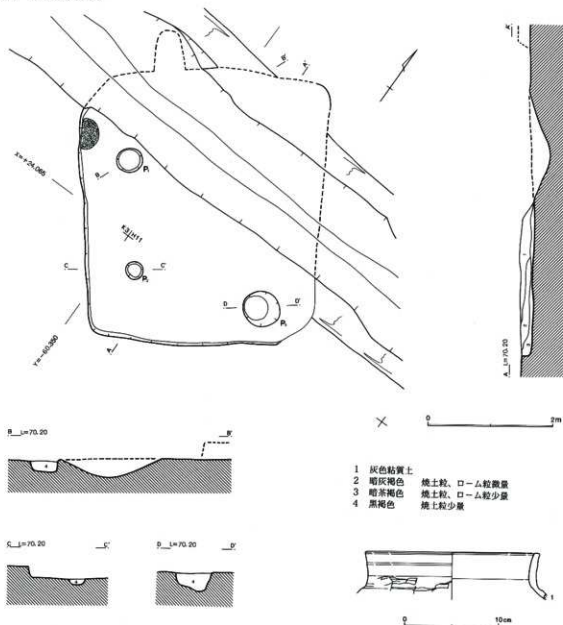
壁は残存する部分ではほぼ直立する。カマドは壁の

状態から考えると北西壁やや西寄りと推定される。壁溝、貯蔵穴は存在しない。

柱穴かどうか疑問が残るが、南半部に3本検出された。P1が径42cm、深さ22cm、P2が径28cm、深さ10cm、P3が径58cm、深さ30cmを測る。間隔はP1P2が1.75m、P2P3が2.16mを測る。

図示できる遺物は大型の甕形土器1点である。総破片数は156点で環形土器39点、鉢形土器2点、甕形土器が1点である。その他燻物石1個体、貝殻穴斑泥岩3個体、総重量8.34gが出土している。

第126図 第69号住居跡



7. 第7住居跡群

第60号住居跡 (第128図)

本住居跡は K3J8 グリッド付近に位置し第61号住居跡によって切られる。

平面形は西壁が歪み、カマド対壁が斜行するか略長方形、4.16×3.75mを測る。主軸方位は N-12°-W である。

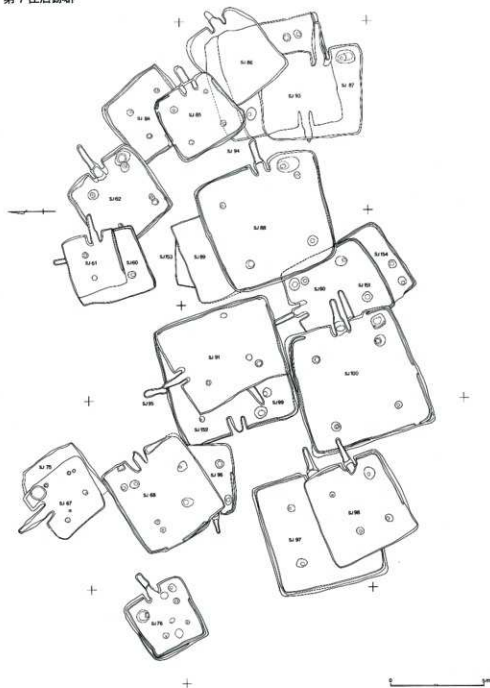
床面は全体に柔らかくはほぼ平坦、掘り方は存在しない。

壁は残存部分ではほぼ直立する。壁溝がカマド対壁～東壁部分的に検出されている。

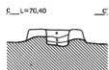
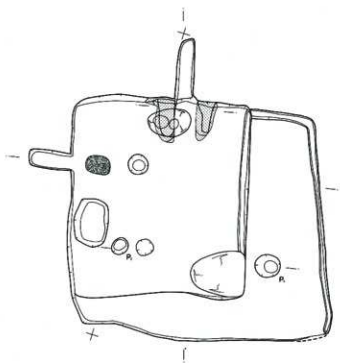
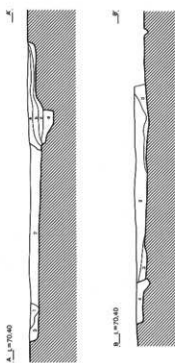
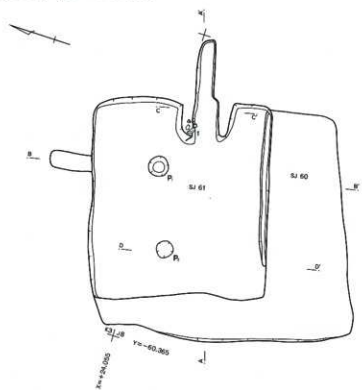
柱穴は2本で、P3、P4ともに浅い。

カマド左側に長方形 (0.76×0.56m) の掘り込みが

第127図 第7住居跡群



第128图 第60・61号住居跡



第60、61号住居跡土層註

- 1 暗赤褐色 焼土粒、ローム粒少量
- 2 暗褐色 砂質、焼土粒、炭化物粒、ローム粒微量
- 3 暗褐色 焼土粒、ローム粒少量
- 4 暗褐色 焼土、焼土粒、炭化物粒少量
- a 暗灰褐色 粘土、カマ下天井部
- b 赤褐色 焼土層
- c 黑褐色 焼土粒、炭化物粒多量
- d 黑褐色 焼土粒、炭化物少量

柱穴土層註

- 1 黑褐色 ローム粒微量
- 2 黑褐色 淡灰色粘土微量

0 2m

検出されているが、深さ5cm前後でごく浅く貯蔵穴ではないと考えられる。

カマドは北壁や東寄りに設置され、袖部は完全に第61号住居跡によって切られている。焚き口部の赤変硬化は顕著。

第61号住居跡 (第128図)

本住居跡はK3J8グリッド付近に位置し、第60、62号住居跡を切る。第60号住居跡とはほぼ直角に交わる。

平面形は西壁が不明確であるが略長方形、規模は3.28×2.90m、深さ15cm前後を測る。

主軸方位はN-75.5°-Eである。

床面は第61号住居跡とはほぼ同一レベルで、カマド付近が硬質であるが、他の部分は全体に柔らかくほぼ平

坦である。

壁はほぼ直立し、掘り込みは浅い。

比較的しっかりした壁溝が、南壁部分に検出されている。

柱穴はほぼ住居主軸に沿った2本で、P2は極く浅いが、P1は深さ27cmを測る。

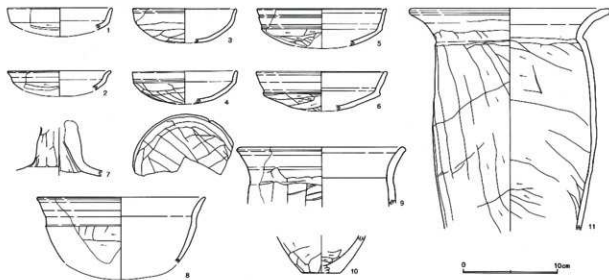
掘り方は南西隅に部分的に存在し、略楕円形状で長さ0.88×短径0.72cmを測り、やや浅い。

カマドは東壁南寄りに設置される。燃焼部は箱形で0.78×0.41m、深さ26cmを測る。焚き口付近はほとんど焼けていない。煙道部へは段をなして移行する。

煙道部は底面ほぼ平坦でほとんど焼けていない。規模は0.91×0.30mを測る。

袖部は部分的に掘り方が存在し、暗褐色土の基底部

第129図 第60・61号住居跡出土遺物



第60・61号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	坏	(11.0)	(2.3)		C1	A	E	10	カマド	口縁外反、稜部ヨコナデ+笥削り
2	坏	(10.8)	(2.1)		C1	A	E	20	埋土	砂質、口縁外反、稜部ヨコナデ+笥削り
3	坏	10.9	(3.6)		A1	A	B	25	埋土	口唇やや肥厚、稜部ヨコナデ+笥削り
4	坏	11.0	(3.4)		A1	A	B	50	埋土	口縁直立、稜部ヨコナデ+笥削り
5	坏	(13.6)	(4.0)		D1	A	B	20	埋土	段部棒状工具、稜部棒状工具+笥削り
6	坏	14.0	(4.1)		AC1	A	B	20	埋土	段部ヨコナデ、稜部棒状工具+笥削り
7	高坏胴部		(5.0)		A1	A	B	40	埋土	唇部短い、器内厚い
8	鉢	(17.8)	(6.9)		A1	B	C	10	埋土	段部ヨコナデ、頸部以下横笥削り
9	甕	(17.4)	(5.5)		A1	B	C	10	埋土	頸部以下縦笥削りによる段
10	甕		(3.9)	(4.0)	A1	B	B	50	埋土	底面木炭痕
11	甕	20.4	23.5		CE4	A	E	70	No.1	口縁外反、頸部段以下縦、斜笥削り

に灰褐色粘土を貼り付ける構造で、左袖に長凳が設置されたとみられる。

第60号住居跡を含めて、図示した以外の出土土器の総破片数は、204点である。

その他土器以外では、貝巣穴痕泥岩が1個体(0.85g)出土している。

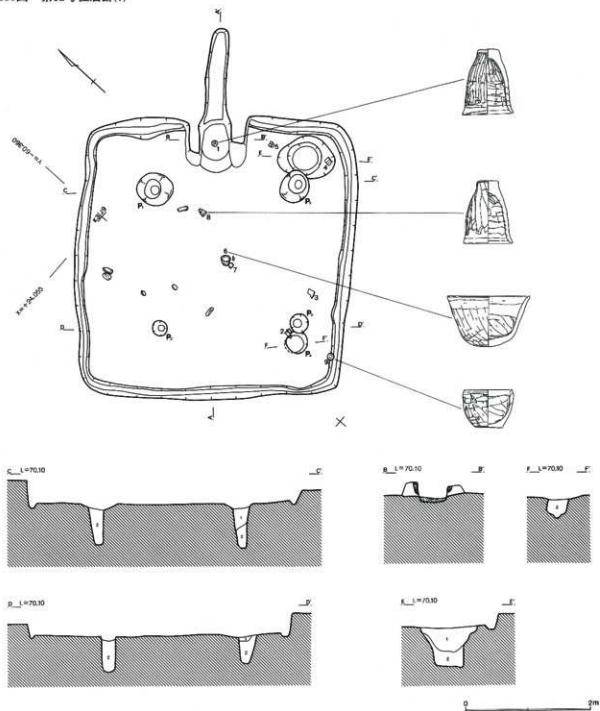
第62号住居跡 (第130、131図)

本住居跡は K3J9 グリッド付近に位置し、第60、61、84号住居跡によって切られる。

平面形は方形、規模は4.57×4.54m、深さ25cm前後を測る。

主軸方位は N-52.5°-E である。

第130図 第62号住居跡(1)



床面はほぼ平坦で、カマド付近は硬質であるが、他の部分は全体に柔らかい。

床面出土遺物は比較的少なく、カマド前面及び住居跡東半部に散在的に出土する。

壁はほぼ直立する。壁溝は幅10～15cm程のものがカマド部分以外を全周する。

主柱穴は4本で方形の整った配置をなす。P4はP3によって切られる。柱穴間隔はP1P2が2.22m、P2P3が2.17m、P3P5が2.23m、P1P5が2.27mで、深さはいずれも深く50～70cm前後を測る。

貯蔵穴はカマド右側、東隅部に位置し、上部は略楕円形状(0.92×0.66m)で下部は径54cmの円形に掘り込まれる。主柱穴P5が接している。

掘り方は存在しない。

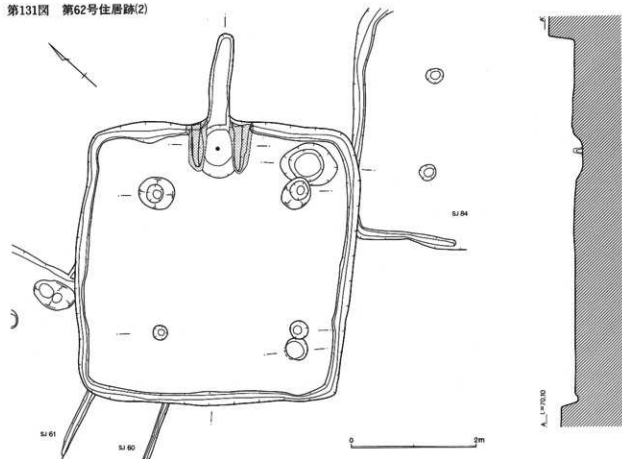
カマドは北東壁中央部よりやや北寄りに設置される。燃焼部は箱形で0.76×0.49m、深さ32cmを測る。ほぼ中央部(奥壁から38cmの位置)に土製支脚が設置される。焚き口部分はよく焼けており、煙道部へは段をなして移行する。

煙道部は天井部が残存し遺存状態は良好。底面はほぼ平坦でほとんど焼けていない。規模は1.45×0.32mを測る。

袖部はわずかに地山を掘り残し、暗褐色粘質土を貼り付ける構造である。

出土遺物のうち第132図1、32～34は混入と考えられる。

第131図 第62号住居跡(2)



第62号住居跡土層註

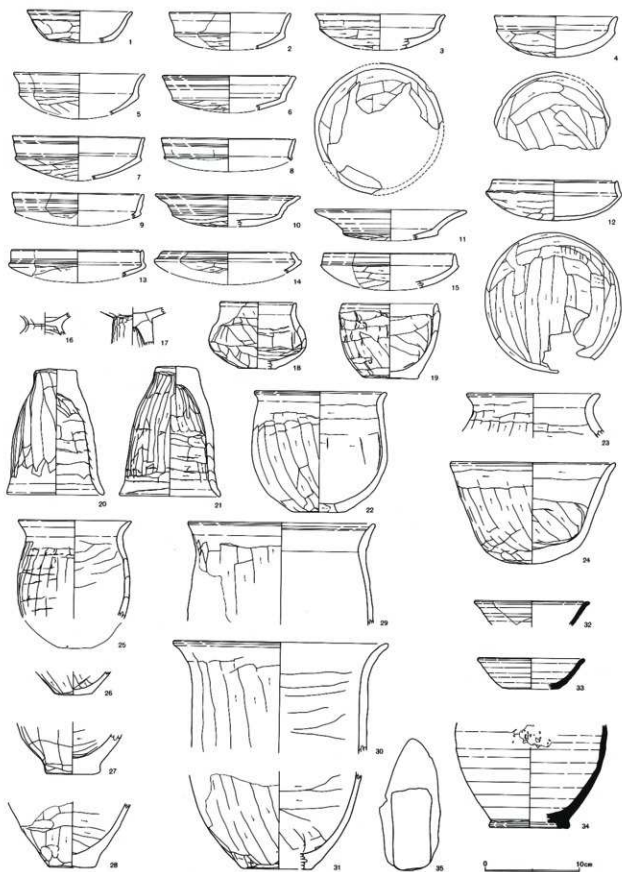
柱穴土層註

- 1 暗褐色 焼土粒少量、ローム、ローム粒多量
- 2 暗褐色 焼土粒少量、ローム、ローム粒大量
- 3 黒褐色 焼土粒多量、炭化物粒、ローム粒少量

貯蔵穴土層註

- 1 黒褐色 焼土、炭化物多量、ローム、ローム粒少量
- 2 黒褐色 焼土粒少量、炭化物少量、ロームブロック多量

第132图 第62号住居跡出土遺物



第62号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	11.0	(3.3)		A1	A	B	25	埋土	口縁下半部ナデ、底面鑑別り
2	環	(12.7)	(3.6)		A1	A	E	10	埋土	口縁外反、後部コナテ+鑑別り
3	環	13.6	(3.7)		E2	A	B	60	埋土	口縁外反、後部工具ナテ+鑑別り、器内厚い
4	環	13.0	4.3		E5	A	B	50	埋土	口縁外傾、後部コナテ+鑑別り、器内厚い
5	環	(13.7)	(4.3)		A1	A	E	20	埋土	口縁外反、後部棒状工具+鑑別り、器内厚い
6	環	14.0	(3.6)		AD1	B	B	20	埋土	段部工具ナテ、後部工具ナテ+鑑別り
7	環	14.0	(4.5)		C1	B	A	40	No.7	段部棒状工具、後部棒状工具+鑑別り
8	環	14.2	(3.5)		C1	B	A	30		段部棒状工具、後部棒状工具+鑑別り
9	環	(13.7)	(2.5)		AD1	A	B	10	埋土	段部棒状工具、後部棒状工具+鑑別り
10	皿	14.2	(3.3)		C1	A	E	20	埋土	口唇沈線段部工具ナテ後部工具ナテ+鑑別り
11	環	15.3	(3.1)		A1	B	A	10	カマド	後部工具ナテ?+鑑別り
12	環	13.1	4.3		AC1	A	A	90	埋土	口唇沈線、後部コナテ+鑑別り
13	環	(13.7)	(2.8)		AD1	A	B	20	埋土	口唇沈線、後部棒状工具+鑑別り
14	環	(13.6)	(2.2)		AD1	A	B	10	埋土	後部棒状工具+鑑別り
15	環	(13.8)	(3.6)		A1	B	E	20	埋土	後部棒状工具?+鑑別り
16	脚部		(2.4)		C1	A	B	50	埋土	台付き糞、後部粘土貼付け
17	高環脚部		(4.0)		A1	A	A	50	埋土	内外面鑑別り
18	碗	8.0	7.0	(4.0)	A2	A	A	20	埋土	口縁部直立、体部鑑別り
19	柄	10.0	7.8	5.8	DE2	A	B	95	No.1	口縁内傾、底面鑑別り、黒斑
20	土製支脚	10.1	13.2	4.3	DE2	A	B	100	No.8	外面鑑別り輪横み痕黒斑、高環脚部転用か?
21	土製支脚	10.4	13.8	4.1	AD2	A	B	100	No.1	外面鑑別り、黒斑、高環脚部転用か?
22	甌	13.7	12.8	6.0	D1	A	B	50	No.2	口縁小さく外反、胴部縦鑑別り
23	甕	14.0	(4.6)		AE5	A	A	25	埋土	口縁小さく外反、胴部縦鑑別り、器内厚い
24	鉢	17.2	10.6		AD2	A	B	100	No.6	底面鑑別り、黒斑、甕底部転用か?
25	小形甕	11.8	(10.2)		E5	A	A	25	No.4	口縁小さく外反、胴部縦鑑別り、輪横み痕小形、胴部縦鑑別り
26	甕底部		(2.4)	3.8	C2	A	A	60	埋土	凸出、器内厚い
27	甕底部		(5.3)	5.4	E5	B	B	70	No.7	
28	甕底部		(6.9)	5.0	E5	A	B	80	埋土	やや上げ底、鑑別り、器内厚い
29	甕	19.5	(10.8)		AD2	B	A	25	埋土	口縁やや外反、頸部以下縦鑑別り
30	甕	(22.1)	11.1		AD2	A	A	20	No.3	口縁部外反、頸部以下縦鑑別り
31	甕底部		(10.3)	7.5	E5	A	B	60	埋土	平底、胴部縦鑑別り、器内厚い
32	須恵環	(11.0)	(2.5)		DE2	A	H	10	埋土	ロクロ右?回転
33	須恵環	12.0	(3.2)		F2	A	H	20	埋土	ロクロ左回転
34	灰釉壺		(11.0)	(8.4)	DF1	A	H	40	埋土	ロクロ左回転、高古低い

第67号住居跡 (第133図)

本住居跡はK3J6グリッド付近に位置し、第75号住居跡を切る。

平面形は略方形、規模は3.76×3.32m、深さ20cm前後を測る。

主軸方位はN-52°-Eである。

床面は南西側がやや傾斜するがほぼ平坦で、全体に硬質である。

出土遺物の大部分は埋土中の出土である。

壁は南東部分が不明であるが、残存部分ではほぼ直立する。壁溝は存在しない。

主柱穴は4本で、カマド側の2本が開く台形状の配

置をなす。柱穴間隔はP1P2が1.68m、P2P3が1.39m、P3P4が1.41m、P1P4が2.12mで、深さはいずれも浅く20cm前後である。

貯蔵穴はカマド右側、北隅部に位置し、ほぼ円形(径74cm)で浅い。

掘り方は存在しない。

カマドは北西壁中央部やや東寄りに設置される。

燃焼部は箱形で0.90×0.49m、深さ21cmを測る。煙道部へは緩く傾斜して移行する。

煙道部は遺存状態は比較的良好で、煙出し部分が長方形形状(0.25×0.18m)に検出された。先端部の幅がやや狭くなる形状をなし、規模は1.23×0.28-0.52m

を測る。

袖部はわずかに地山を掘り残し、暗褐色粘質土を貼り付ける構造である。

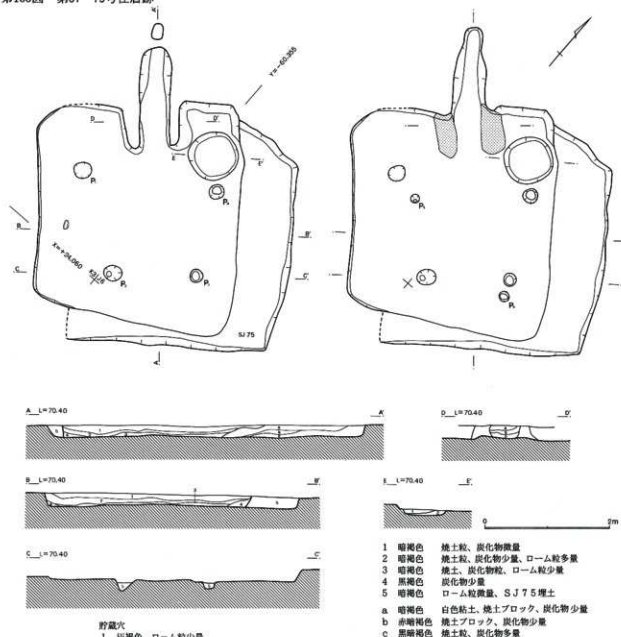
第75号住居跡 (第133図)

本住居跡は K3J6 グリッド付近に位置し、第67号住居跡によって切られる。

平面形は北壁が歪むが方形乃至長方形、規模は 3.20×3.21m、深さ20cm前後を測る。

長軸方位は N-54°-E である。

第133図 第67・75号住居跡



床面はほとんど残存していないが、ほぼ平坦。全体に硬質である。

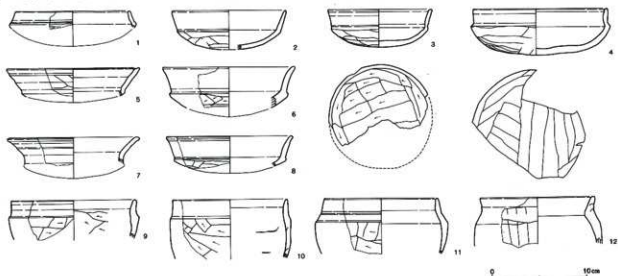
出土遺物の大部分は埋土中の出土である。

壁は東側が第67号住居跡によって切られ、不明であるが残存部分ではやや傾斜する。

柱穴は第67号住居跡の P5、P6 が伴うかどうか確認はない。

カマドは重複の位置関係からみると北西壁に設置された可能性が高い。その他の施設については不明である。

第134図 第67号住居跡出土遺物



第67号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	(12.3)	(3.1)		A2	B	F	10	埋土	口縁内傾、稜部工具?+笥削り
2	環	12.2	(4.2)		A1	A	C	25	埋土	稜部ヨコナデ+笥削り、摩滅顯著
3	環	11.0	4.0		A1	A	B	50	埋土	口唇やや肥厚、稜部ヨコナデ+笥削り
4	環	14.2	4.9		AD1	A	B	40	埋土	口唇沈線、稜部工具ナデ+笥削り
5	環	(14.2)	(3.6)		AE1	A	A	10	埋土	口唇沈線、稜部工具?+笥削り
6	環	(14.0)	(5.3)		A1	A	F	10	埋土	口唇肥厚、稜部ヨコナデ+笥削り、器内厚い
7	環	(14.0)	(4.3)		A1	A	E	10	埋土	口縁外反、段部ヨコナデ、稜部工具?
8	環	(13.4)	(4.0)		A1	A	C	20	埋土	口唇肥厚、稜部工具ナデ?+笥削り
9	椀	(13.3)	(4.2)		E2	A	A	10	埋土	器内厚い、頸部横笥削り
10	椀	(12.1)	(6.3)		E2	B	A	10	埋土	器内厚い、頸部横笥削り
11	椀	(12.0)	(5.9)		AC1	B	B	10	埋土	口縁内傾、頸部横笥削り
12	椀	(12.1)	(5.3)		E5	A	E	10	埋土	口縁短い、頸部下縦笥削り、器内厚い

第68号住居跡 (第133図)

本住居跡は K3K6 グリッド付近に位置し、第96号住居跡を切る。

平面形は長方形、規模は5.39×5.00m、深さ20cm前後を測る。

主軸方位は N-59.5°-E である。

床面はほぼ平坦で、全体に柔かい。東隅部分床面上には小礫が壘溝状に配置されていた。

壁は東隅部分が不明瞭であるが、残存部分ではほぼ直立する。

壘溝は南東壁以外に存在し、部分的に途切れる。カマド左側部分は幅広い。

主柱穴は2本 (P1、P4) と考えられ、その他にやや

浅いものが2本存在する。P1には柱痕跡が検出された。南側の相当する位置には、第96号住居跡の柱穴が存在し本住居跡に伴うものはない。

柱穴間隔は P1P4 が2.80m、P1P2 が0.64m、P3P4 が0.51mを測る。

貯蔵穴はカマド左側方形ピットが相当するか。

掘り方は存在しない。

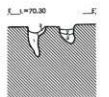
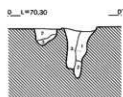
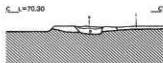
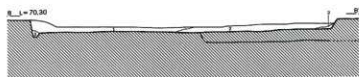
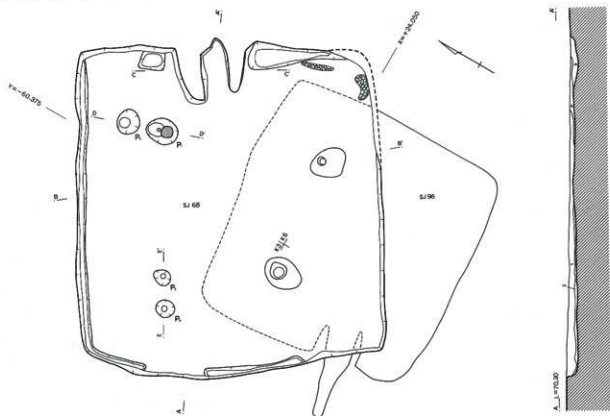
カマドは北東壁中央部やや北寄りに設置される。

燃焼部は箱形で1.05×0.40m、深さ6cmを測る。煙道部は削平されたためか存在しない。

袖部は遺存状態が悪いが、暗褐色粘質土を貼り付ける構造である。

紡錘車はカマド右袖付近から出土している。

第135図 第68号住居跡・出土遺物



0 2m

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒少量
- a 暗赤褐色 焼土、焼土ブロック多量
- b 暗褐色 焼土、炭化物多量

柱穴

- 1 暗褐色 焼土、炭化物、ロームブロック多量
- 2 暗灰褐色 粘性強、炭化物少量
- 3 黒褐色 焼土、ロームブロック少量



0 10cm

0 5cm

第68号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	坏	(12.0)	(4.2)		A1	A	B	10	埋土	口唇沈線、稜部ヨコナテ?+寛削り
2	坏	13.0	4.2		A1	A	C	50	埋土	口縁内湾段部ヨコナテ稜部棒状工具+寛削り
3	坏	(12.9)	(3.7)		AE1	A	B	10	埋土	稜部工具ナテ+寛削り
4	坏	(13.1)	(5.0)		A1	A	C	20	埋土	口縁内湾、稜部ヨコナテ+寛削り
5	甕	20.0	(6.7)		E5	A	E	20	埋土	口縁屈曲外反、頸部以下斜め寛削り
6	紡錘車	上径4.25×下径1.5×孔径0.65×厚さ1.4(cm)、重量32.7g								

第76号住居跡 (第137図)

本住居跡は K3K4 グリッド付近に位置し、第68号住居跡の東側やや離れた位置に存在する。

平面形は僅かに台形状を呈するが略長方形、規模は3.74×3.67m、深さ20cm前後を測る。

主軸方位は N-58.5°-W であるが、カマド軸は若干ずれており N-52°-W を測る。

床面はほぼ平坦で、掘り方は存在せず地山直上に構築される。

壁は僅かに傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。

壁溝はカマド部分から南東壁隅以外に存在し、西隅部分でやや歪む。

主柱穴は4本 (P1、P2、P4、P5) で P2、P4 間に浅いピットが2本存在する。P1 は浅く、他の3本はいずれも60cm前後で深い。P1 以外は柱痕跡が検出された。柱穴配置は P1 がややずれた、カマド側が開く略台

形状。柱穴間隔は P1P2 が1.50m、P2P4 が1.37m、P4P5 が1.27m、P1P5 が1.79m を測る。

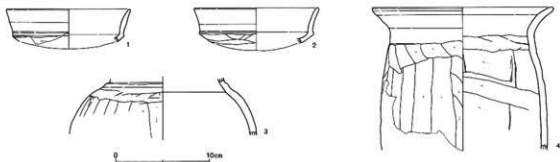
貯蔵穴は存在せず、カマド左側の相当する位置に浅いピットが存在する。

カマドは北東壁(北)中央部に設置される。燃焼部はやや歪みがあるが箱形と考えられ規模は0.70×0.46m、深さ38cmを測る。燃焼部奥壁部分はやや掘り込まれており、段をなし煙道部へ移行する。煙道部は底面平坦でほとんど焼けていない。規模は0.85×0.32mを測る。

袖部は比較的遺存状態は良く、暗褐色粘質土を貼り付ける構造である。

図示した以外の出土土器破片総数は116点である。坏彩土器が口縁部7点、体部20点である。高坏彩土器が胴部1点、脚部2点である。甕形土器が口縁部3点、胴部80点、底部3点である。

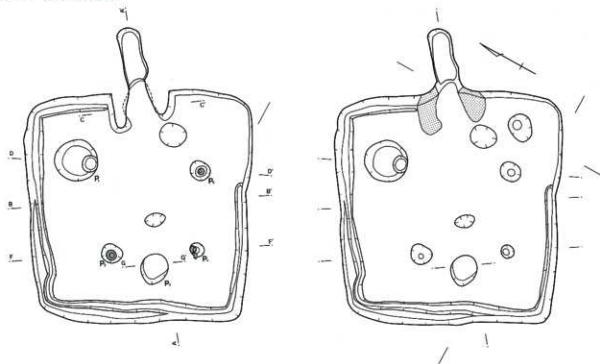
第136図 第76号住居跡出土遺物



第76号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	坏	12.8	(3.6)		A1	A	C	25	埋土	口縁外反、稜部ヨコナテ+寛削り、内面黒色
2	坏	13.0	(3.7)		A1	A	C	25	埋土	段部ヨコナテ、稜部ヨコナテ+寛削り、黒斑
3	甕		(6.1)		C1	B	B	40	埋土	頸部横、以下縦溝削り、外面黒斑
4	甕	19.0	(15.3)		CE5	A	B	40	埋土	口縁屈曲外反、頸部以下斜め、縦溝削り

第137図 第76号住居跡



Y=60.285 52M
X=22.000

A_L=70.90



K

C_L=70.40

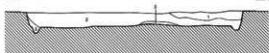


C'

G_L=70.90

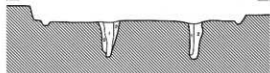


B_L=70.40



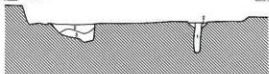
F

F_L=70.40



F'

D_L=70.40



D'

0 2m

- 1 暗褐色 ローム粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒多量
- 3 暗褐色 焼土粒、ローム粒少量
- a 暗黄灰色 炭化物・焼土微量
- b 暗褐色 焼土・焼土ブロック多量
- c 暗赤褐色 焼土
- d 暗黄褐色 暗灰色・焼土ブロック多量
- e 焼土ブロックと暗褐色土
- f 暗褐色 焼土、炭化物少量
- g 暗褐色 焼土微量

柱穴

- 1 暗褐色土とロームブロック
- 2 暗褐色土ブロックとロームブロック
- 3 暗褐色土とロームブロック

第84号住居跡 (第138図)

本住居跡は K3J10 グリッド付近に位置し、第7住居跡群東側のやや小形の住居跡群に含まれる。第62、85号住居跡によって切られる。

平面形は方形、規模は4.07×4.06m、深さ38cmを測る。

主軸方位は N-129.5°-W であるが、カマド軸は若干ずれており N-121°-W を測る。

床面はやや凹凸がめだつ。掘り方は存在せず地山直上に構築される。

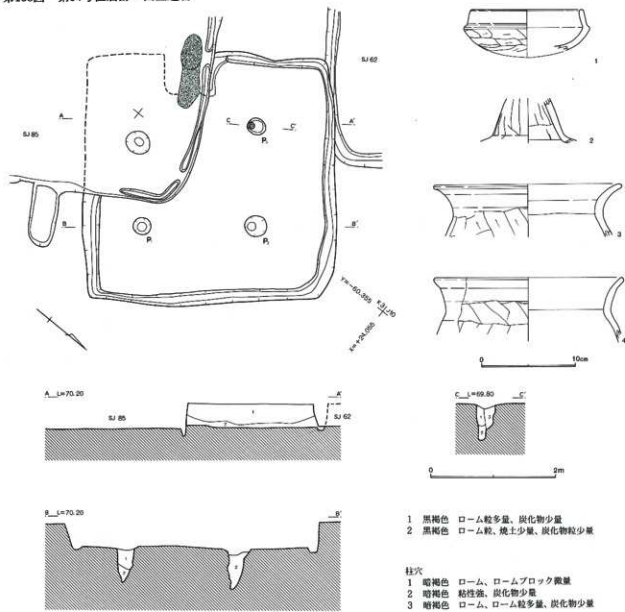
壁は僅かに傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。

壁溝は第85号住居跡と重複する部分以外は存在し、掘り込みおいがしっかりしている。

主柱穴は精査にもかかわらず3本しか検出できなかった。3本はいずれも60cm前後で深い。P3は柱痕跡が検出された。

柱穴配置は長方形状と考えられる。柱穴間隔は P1P2 が1.72m、P2P3 が1.62m、P1P3 が2.33mを測る。

第138図 第84号住居跡・出土遺物



貯蔵穴は存在しない。

カマドは南西壁やや南よりに設置されるが、第85号住居跡との重複により遺存状態はごく悪く痕跡的である。

燃焼部は底面の焼土が残存しているのみである。規模第84号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	12.0	(5.1)		E2	B	A	30	埋土	稜部ココナテ+寛削り
2	高環脚部		(4.7)		AD1	A	B	30	埋土	内面寛削り、摩滅顯著
3	甕	19.6	(5.6)		E5	A	B	20	埋土	口縁部外反、外面斜め寛削り
4	甕	19.7	(6.8)		DE2	A	C	10	埋土	口縁部外反、外面斜め寛削り

第85号住居跡 (第130図)

本住居跡はK3L10グリッド付近に位置し、第84、93、94号住居跡を切り、第86号住居跡によって切られる。

平面形は南壁が若干歪むが略方形、規模は4.21×3.83m、深さ42cmを測る。

主軸方位はN-59°-Eを測る。

床面はほぼ平坦、全体に硬質である。掘り方は存在せず地山直上に構築される。

壁は僅かに傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。

壁溝はカマド部分と北西壁で一部途切れる以外は存在し、掘り込みは浅いがしっかりしている。

主柱穴は4本で、カマド側のP1、P4はいずれも深さ65cm程で深く、カマド対壁側のP2、P3は深さ40cm前後でやや浅い。P1は柱痕跡が検出された。

柱穴配置は方形である。柱穴間隔はP1P2が1.96m、P2P3が1.98m、P3P4が1.97m、P1P4が1.96mを測る。

貯蔵穴は存在しない。

カマドは北東壁やや南よりに設置される。遺存状態は良好である。

燃焼部は箱形を呈し、規模は0.66×0.45m、深さ0.32mを測る。中心部からやや右側にずれて、粗製の坏形土器が2個体出土している。燃焼部から煙道部へは10cm程の段をなして移行する。

模は1.17×0.32mを測る。燃焼部奥壁部分は掘り込まれる。

煙道部及び煙道部へ移行は85号住居跡による削平で不明である。

右袖部分がかろうじて残存し、地山掘り残しである。

煙道部はほぼ平坦でほとんど焼けていない。先端部で坏形土器が出土している。

袖部は暗褐色粘質土の貼り付けにより構築される。カマド壁は掘り込まれていない。

床面乃至床面より若干浮いた位置で、比較的多量の完形乃至完形にちかい遺物が出土している。分布範囲はカマド左側(甕形土器2個体)と、南東壁から南西壁下の主柱穴間(甕形土器、坏形土器)に比較的集中している。また床面(ほぼ)中央部に大形の河原石が2個体出土している。

出土遺物は大部分が坏形土器で、その他鉢形土器、甕形土器、甕形土器、須恵器環、甕形土器等が出土している。

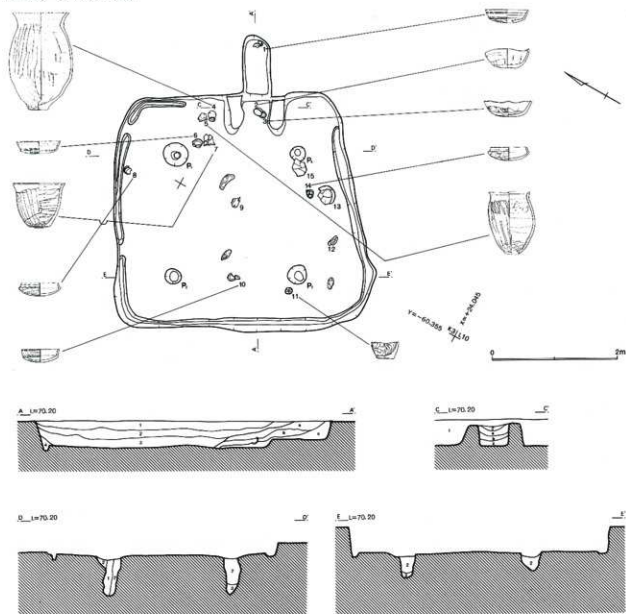
須恵器甕形土器は埋土中の出土で、他住居跡出土のものと同接している。

坏形土器は口縁部が外反するもの、内傾するもの、有段口縁のものが存在し、内傾するものの割合が比較的高い。いずれも口唇部に沈線を持たない。有段口縁のものは、体部が浅い。また模倣環以外に粗製で器肉が厚いものもある。

甕形土器は胴部が膨らむもので、最大径が口縁部径とほぼ等しい。法量に差がある。

図示したもの以外の総点数は778点である。坏形土器234点(口縁部88、体部146)、高坏形土器口縁部2点、甕形土器(口縁部30、胴部499、底部13)512点である。

第139図 第85号住居跡

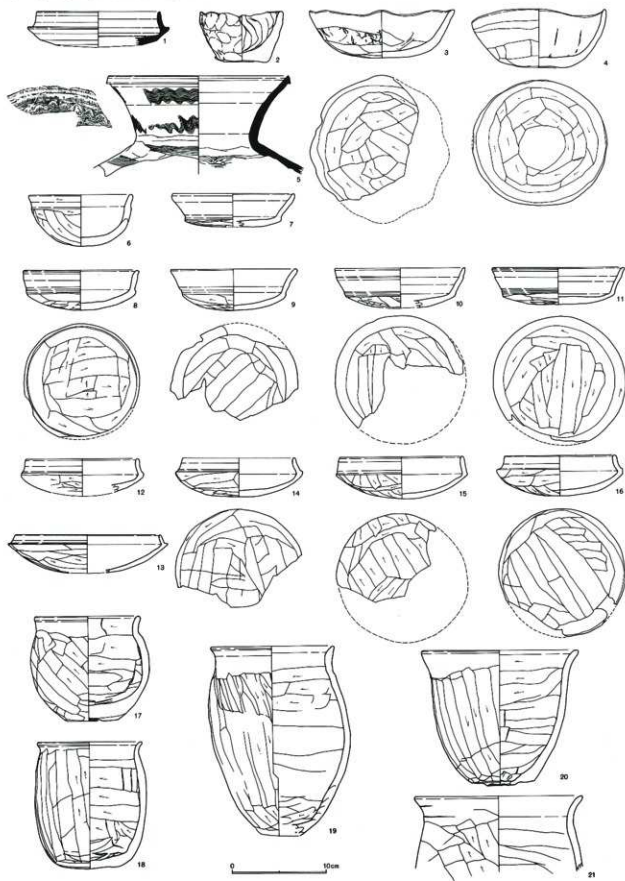


- | | | | | | | |
|---------|------------------|--------|--------------|-------|------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒、炭化物粒少量 | a 黒褐色 | 焼土粒多量、カマド天井部 | 柱穴 | 1 黒褐色 | ローム、ローム粒大量、焼土、炭化物少量 |
| 2 暗黒灰褐色 | 焼土粒、炭化物粒、ローム粒少量 | b 暗赤褐色 | 焼土、焼土ブロック多量 | 2 黒褐色 | ローム、ローム粒多量、炭化物少量 | |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒、炭化物粒、ローム粒少量 | c 黒色 | 炭化物層 焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | 粘土質、ローム、ローム粒少量 | |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック、ロームブロック少量 | | | | | |

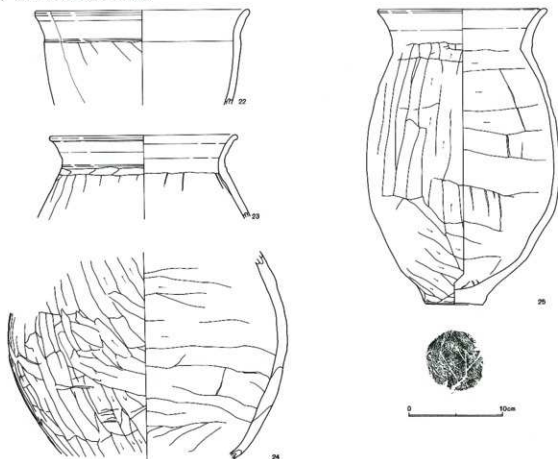
第85号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵環	13.0	(3.6)		F1	A	H	30	カマド	ロクロ左回転 内外面指頭ナデ
2	椀	8.5	5.3	5.6	A1	A	A	80	Na11	口縁部波状? 体部未調部含む範囲り
3	椀	15.3	5.1		AE5	A	E	40	Na 3	口縁部波状? 体部未調部含む範囲り
4	椀	14.1	6.2		AD6	A	E	95	Na 2	口縁部波状? 体部未調部含む範囲り
5	須恵器甕	19.0	(10.4)		D1	A	H	25	SJ25, 86, 168と接合	ロクロ右? 回転、20本/1.9cm
6	環	11.0	5.4		A5	A	B	20	埋土	器肉厚い、後部ココナデと範囲り

第140图 第85号住居跡出土遺物(1)



第141図 第85号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
7	坏	13.6	(3.6)		AE2	B	A	25	埋土	器肉厚い、後部工具ナデ+笥削り、黒斑
8	坏	12.1	4.3		A1	A	E	90	No10	口唇肥厚、後部棒状工具+笥削り
9	坏	13.4	4.4		A2	A	A	50	埋土	器肉厚い、後部ヨコナデ+笥削り
10	坏	13.8	(3.8)		AE2	A	B	50	No 1	段部ヨコナデ、後部工具ナデ+笥削り
11	坏	14.0	3.9		AD1	A	B	90	No 6	段部ヨコナデ、後部工具ナデ+笥削り
12	坏	(13.0)	(3.75)		AD1	A	B	40	カマド	後部ヨコナデ+笥削り、器肉厚い
13	坏	15.4	(4.0)		AD1	A	B	70	No 8	後部工具ナデ+笥削り
14	坏	13.0	4.1		AD2	A	B	80	No14	後部工具ナデ+笥削り、外面黒斑
15	坏	13.0	4.2		AD1	A	B	40	埋土	口縁小さく器肉薄い、後部工具ナデ+笥削り
16	坏	11.6	4.2		A1	A	E	30	埋土	後部工具ナデ+笥削り
17	小形甕	10.8	11.1	5.1	AE5	B	E	100	No 4	口縁直立頸部以下笥削り 底部凹環技法、黒斑
18	小形甕	10.7	13.5	6.0	AE5	A	B	95	No 9	口縁直立頸部以下縦笥削り 平底
19	小形甕	12.9	20.0	(4.2)	A2	A	B	50	No 7	砂質、口縁外反、頸部以下縦笥削り
20	甕	16.2	(14.4)	6.5	AE5	A	B	80	No 9	小形卑孔、口縁外反、頸部以下縦笥削り
21	甕	17.6	(8.0)		AE5	B	A	25	埋土	口縁やや外反、頸部以下斜め笥削り
22	鉢	(22.7)	(10.1)		AE5	A	C	10	埋土	頸部以下斜め笥削り
23	甕	20.0	(8.9)		C2	A	A	25	埋土	口唇肥厚、頸部以下縦笥削り
24	壺		(22.1)		AE5	A	B	70	No13、15	上部削り後ナデ、下部縦笥削り、黒斑
25	甕	17.6	31.1	6.0	D5	A	B	40	埋土	口縁屈曲外反、頸部縦笥削り、底面木炭痕

第86号住居跡 (第142図)

本住居跡はK3L10グリッド付近に位置し、第85、87、93、97号住居跡を切り、周辺部ではもともと新しい住居跡である。

平面形はカマド壁、東隅部分が歪むか略長方形と考えられる。規模は4.58×4.07m、深さ38cmを測る。

主軸方位はN-52.5°-Eを測る。

床面は重複する住居跡のため不明瞭で、全体に柔らかい。掘り方は存在しない。

壁は全体にはっきりしなかった。僅かに傾斜するが、

掘り込みはしっかりしている。

壁溝、支柱穴、貯蔵穴等の施設は存在しない。

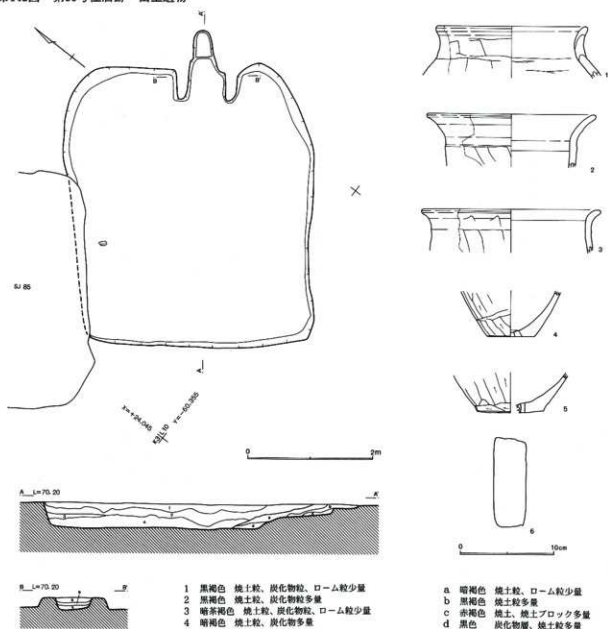
カマドは北東壁やや南よりに設置される。遺存状態は比較的良好である。

燃焼部は箱形を呈し、規模は0.74×0.58m、深さ0.20mを測る。燃焼部奥壁は掘り込まれ煙道部へは段をなして移行する。

煙道部はほぼ平坦で、先端部は削平されたとみられる。現状で0.42×0.32mを測る。

袖部は暗褐色粘質土の貼り付けにより構築される。

第142図 第86号住居跡・出土遺物



図示した出土遺物は、甕形土器口縁部、底部と編物石1個体である。

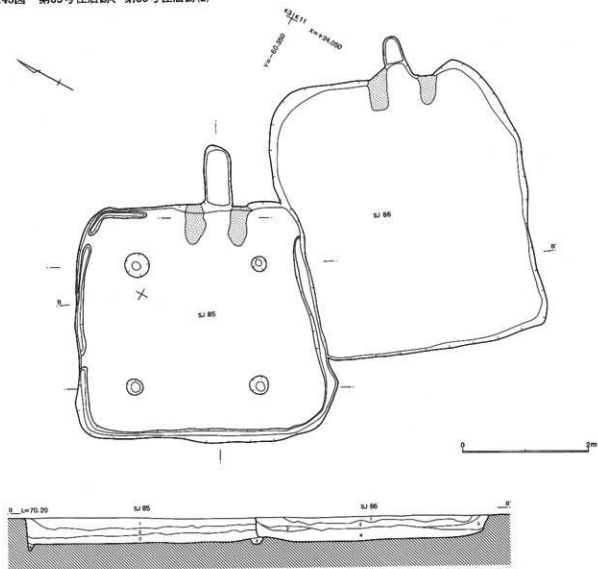
図示したもの以外の総破片点数は286点で、やや少量である。環形土器143点(口縁部37、体部106)、高環形土器脚部1点、甕形土器(口縁部20、胴部116、底部6)142点である。

第87号住居跡(第144図)

本住居跡はK3L10グリッド付近に位置し、第93号住居跡を切り、北東隅を第86号住居跡によって切られる。

平面形は長方形、乃至カマド壁及びびカマド対壁が斜行する平行四辺形で、規模は5.64×5.05m、深さ24cm

第143図 第85号住居跡、第86号住居跡(2)



第86号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	甕	(16.1)	(5.4)		AE2	A	F	10	埋土	口縁外反、頸部以下縦溝削り、器肉厚い
2	甕	(18.0)	(5.6)		AE2	A	A	10	埋土	口縁田曲外反、頸部以下斜め削り
3	甕	(19.0)	(4.6)		AD2	A	A	10	埋土	口縁外反、頸部以下斜め削り
4	甌		(4.8)	5.0	A1	A	A	10	埋土	小形穿孔
5	甌		(4.3)	(7.0)	E5	B	E	25	埋土	小形多孔

を測る。

主軸方位はN-88°-Eを測る。

床面はほぼ平坦、住居跡の重複にも関わらず全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁は僅かに傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。

壁溝、柱穴は存在しない。

貯蔵穴はカマド右側に位置する。平面形は隅円長方形、規模は1.04×0.69m、カマド側がピット状に深く、深さは80cmを測る。

カマドは東壁やや南よりに設置される。遺存状態は良好である。

燃焼部は良く焼けており、箱形を呈し規模は0.77×0.56m、深さ0.28mを測る。燃焼部と煙道部の軸線は僅かにずれている。燃焼部から煙道部への底面の移行は緩やかである。

煙道部は外方に向かって緩やかに立ち上がる。ほとんど焼けていない。規模は1.10×0.50mを測る。

袖部は暗灰褐色粘土の貼り付けにより構築されるが、右袖部分の壁は大きく掘り込まれる。両袖先端部には甕形土器破片が散布しており、袖先端部に補強壁の存在が考えられる。

床面出土遺物は、カマド周辺部と貯蔵穴内に限られる。

出土遺物は大部分が甕形土器で、その他高環形土器、甕形土器、甕形土器、須恵器蓋及び土鏝1点が出土している。須恵器蓋は小破片で埋土中の出土である。

図示したもの以外の総点数は1,532点である。環形土器(口縁部203、体部436) 639点、高環形土器(口縁部第87号住居跡出土遺物観察表

部6、脚部3) 9点、鉢形土器(口縁部12、体部6) 18点、甕形土器底部1点、甕形土器(口縁部68、胴部774、底部23) 865点である。

さらに貝果穴痕泥岩が2個体、総重量5.89gが出土している。

環形土器は、口縁部が大きく外反するもの、及び有段口縁は少量で、主体をなすのは、小さく外反ないし直立するものである。体部がやや深いもの(5、6)と浅いものが存在する。

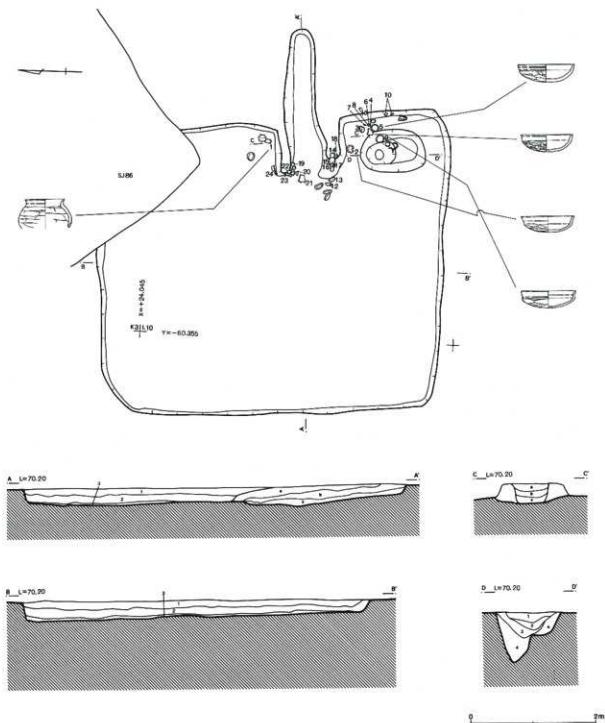
稜部の造出手法は、口縁部を横撫でした後、体部の篋削りによって造出しているものが大部分で、棒状工具の併用により沈線状に凹むものは少ない。また成形手法上の特徴として稜下部に粘土のしわ(未調整部分)が存在するもの(13-16)がある。体部内面の不明瞭な指頭痕と対応しており、粘土の曲げによる成形がうかがわれる。

その他、やや大形で口縁部が小さく直立ないし、内傾する、体部が深い環形土器(17-20)が少量存在する。稜部の造出手法は小形のものとはほぼ同一である。体部篋削りについては若干の相違があり、大形のものには体上半部は非常に丁寧な篋削りで、単位が不明瞭である。

甕形土器は胴部の張りがなく、頸部の段が残るものと、縦篋削りされるものが併存する。

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵蓋	(13.0)	(3.0)		F1	A	I	20	埋土	ロクロ右回転
2	環	12.0	(3.1)		A1	A	C	25	埋土	口縁外反、稜部ヨコナテ+篋削り、器内薄
3	環	11.2	(3.8)		A1	A	C	25	埋土	口縁内湾段部ヨコナテ+稜部工具ナテ+篋削り
4	環	12.0	(3.8)		AC1	A	A	30	埋土	口唇肥厚段部棒状工具稜部棒状工具+篋削り
5	環	11.8	3.8		AC1	A	B	40	№7	口唇外反、稜部ヨコナテ+篋削り、黒底
6	環	11.1	3.9		AC1	A	C	100	カマド+№28	口唇外反稜部ヨコナテ+篋削り内面指頭ナテ
7	環	11.3	3.4		AC1	A	B	95	№2	口縁外反、稜部ヨコナテ+篋削り

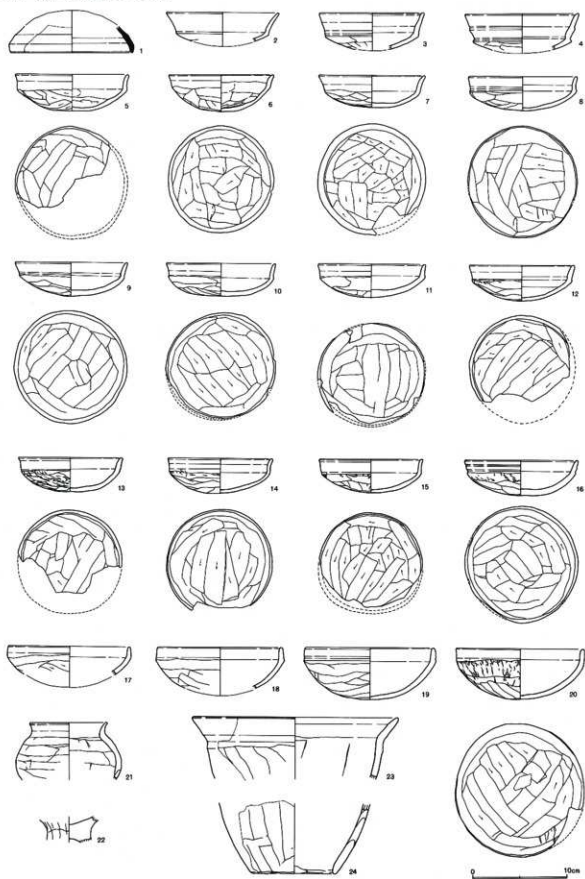
第144図 第87号住居跡



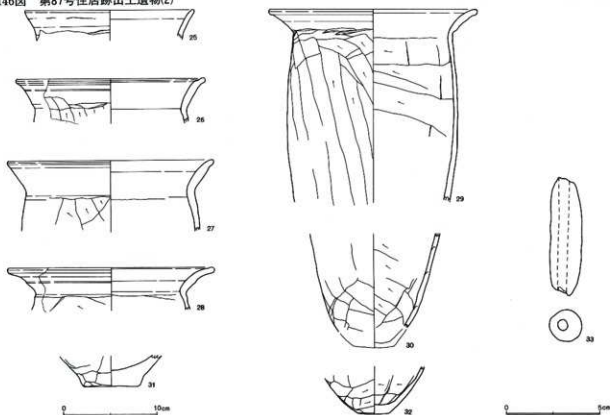
- 1 黒褐色 焼土粒、炭化物粒少量
- 2 暗茶褐色 焼土粒、炭化物粒多量、ローム粒少量
- 3 暗茶褐色 焼土粒、ローム粒多量
- a 暗茶褐色 焼土粒、炭化物粒少量、ローム粒少量
- b 暗灰褐色 焼土粒多量
- c 黒褐色 炭化物層、焼土粒少量

- 貯蔵穴
- 1 暗褐色 焼土、炭化物多量
 - 2 暗褐色 焼土、焼土粒多量、炭化物多量
 - 3 暗黄褐色 焼土少量、ローム、ローム粒多量
 - 4 暗褐色 灰褐色粘土少量、焼土少量

第145图 第87号住居跡出土遺物(1)



第146図 第87号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
8	環	11.5	3.6		AE2	B	H	100	No.9	口縁やや外反、稜部工具ナテ+笥削り
9	環	12.0	3.5		A2	A	C	100	No.3+12	口縁外反、稜部ヨコナテ+笥削り
10	環	11.5	3.5		A2	A	B	90	No.11	口唇肥厚、稜部ヨコナテ?+笥削り
11	環	11.4	3.5		A1	A	A	80	埋土	口縁直立、稜部ヨコナテ+笥削り
12	環	11.2	3.7		A1	A	B	80	No.2.6	口縁外反、稜部工具ナテ+笥削り(含未調)
13	環	11.0	3.6		A1	A	B	70	No.4	口唇肥厚、稜部ヨコナテ+笥削り(含未調)
14	環	11.1	3.7		A1	A	B	90	No.27	口縁外反、稜部ヨコナテ+笥削り(含未調)
15	環	11.0	3.5		AD1	A	B	80	No.8	口唇肥厚、稜部ヨコナテ+笥削り(含未調)
16	環	12.0	3.7		AC1	A	E	90	No.5	段部工具、稜部工具ナテ+笥削り(含未調)
17	環	(13.0)	(3.0)		A1	A	E	25	埋土	口縁内湾、稜部ヨコナテ+笥削り
18	環	13.3	(4.4)		A1	A	E	25	埋土	口縁内傾、稜部ヨコナテ+笥削り
19	環	13.6	5.5		A1	A	E	25	埋土	口縁内傾肥厚、稜部ヨコナテ+笥削り
20	環	13.5	5.3		AC1	A	B	90	No.10	口縁直立、稜部ヨコナテ+笥削り(含未調)
21	小形壺	8.0	(6.1)		A1	A	C	20	埋土	口縁小さく直立
22	高環脚部		(2.8)		A1	B	C	60	埋土	接合部、摩滅顯著
23	鉢	(21.6)	(6.5)		E5	A	A	10	埋土	口縁外反、頸部以下斜め笥削り
24	甕底部		(7.4)	(9.0)	A5	A	B	10	埋土	大形単孔、先端とがる、墨斑
25	甕口縁部	18.0	(3.2)		AC2	A	E	40	埋土	口縁外反、頸部以下笥削り
26	甕口縁部	(20.0)	(4.8)		AC2	B	E	10	埋土	口縁外反、頸部縦笥削りによる段
27	甕	(22.0)	(7.5)		C2	A	B	20	No.19	口縁稍曲外反、頸部縦笥削り
28	甕	(22.0)	(4.5)		CD2	A	E	20	カマド	口縁外反屈折、頸部斜め笥削り
29	甕	22.2	(20.3)		E5	A	E	60	カマド+No.20	口縁外反、頸部以下横笥削りによる段
30	甕脚部		(10.0)		C2	A	E	50	No.17	外面縦、斜め笥削り
31	甕底部		(3.2)	5.8	E2	B	B	50	埋土	外面斜め笥削り、器肉厚い
32	甕底部		(5.1)	3.3	E2E	A	E	70	カマド	小形底部、外面斜め笥削り、器肉薄い
33	土 錘	長径(6.2)×最大径1.7×孔径0.5(cm)、重量14.8g								

第88号住居跡 (第147、148図)

本住居跡はK3L9グリッド周辺に位置し、第7住居跡群のうち、南側の主に人形住居跡が分布する範囲に存在する。第89、90号住居跡を切り、カマド先端部は第93号住居跡と接する。

平面形はカマド壁が若干歪み、南壁が斜行するか略長方形で、規模は6.92×6.40m、深さ32cmを測る。

主軸方位はN-73°-Eを測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁はほぼ直立し、いずれの部分も掘り込みはしっかりしている。

床面出土遺物は炭化物以外はほとんどない。

壁溝はカマド部分から南東隅部、及び北西隅部分を除いて一巡する。全体に幅狭く掘り込みはしっかりしている。

柱穴は4本で、P4がややはずれた位置に存在する。カマド側の2本は細く径30cm程で、P1がやや浅い。東壁側の2本は太く径46~53cm程で、P3がやや浅い。P2、P3は柱痕跡が検出された。

柱穴配置はカマド壁側が開く台形状である。柱穴間隔はP1P2が3.45m、P2P3が3.50m、P3P4が3.58m、P1P4が4.34mを測る。

貯蔵穴はカマド右側に位置する。平面形は隅円長方形状、規模は1.20×0.75m、カマド側が隅円形(0.60×0.46m)のビット状に深く、35cmを測る。

カマドは東壁やや南よりに設置される。遺存状態は良好である。

第88号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	灰輪蓋	11.4	(1.8)		F1	A	I	40	埋土	ロクロ左回転
2	須恵蓋	11.6	4.0		E2	B	H	60	埋土	ロクロ右回転、天井部一定方向の削り
3	環	12.0	(2.9)		A1	A	H	25	埋土	口唇肥厚、後部横ナデ+寛削り加熱で歪み顕著
4	環	12.0	4.6		A1	B	B	40	埋土	口唇肥厚、後部棒状工具+寛削り、内面黒色
5	環	11.8	(3.7)		A1	A	E	25	埋土	口縁屈曲外反、後部ヨコナデ+寛削り
6	環	11.2	3.7		A1	A	C	40	埋土	口縁屈曲外反、後部ヨコナデ?+寛削り
7	環	12.6	(4.9)		A1	B	A	25	埋土	口唇肥厚、後部棒状工具+寛削り、内面黒色
8	環	12.4	4.3		A2	A	C	50	埋土	口縁やや屈曲外反、後部工具ナデ?+寛削り
9	環	12.0	(3.6)		A1	A	B	25	埋土	口縁やや屈曲外反、後部ヨコナデ+寛削り
10	環	13.0	(4.0)		A1	A	E	30	埋土	口縁やや屈曲外反、後部工具ナデ+寛削り

燃焼部は上半部が良く焼けており、両袖の赤変硬化がみられる。箱形を呈し、規模は0.67×0.52m、深さ0.38mを測る。焚き口部に倒れ込んだ状態で土製支脚が出土しているが、位置は中央からやや左側にずれている。燃焼部と煙道部の軸線は同一である。燃焼部から煙道部へは段をなして移行する。

煙道部底面は平坦で、ほとんど焼けていない。規模は1.29×0.39mを測る。

袖部は暗褐色粘質土の貼り付けにより構築される。袖部分の壁は直線状で掘り込まれていない。

出土遺物はほぼ彩形土器が主体で、その他高環形土器、甕形土器、須恵器蓋及び白玉1点、土鎌5点が出土している。図示したもの以外の総点数は2,353点である。彩形土器(口縁部303、体部577)880点、高環形土器口縁部5点、鉢形土器(口縁部8、体部20)28点、甕形土器(口縁部93、胴部1,287、底部60)1,440点である。

さらに貝塚穴底泥岩が3個体、総重量23.15gが出土している。

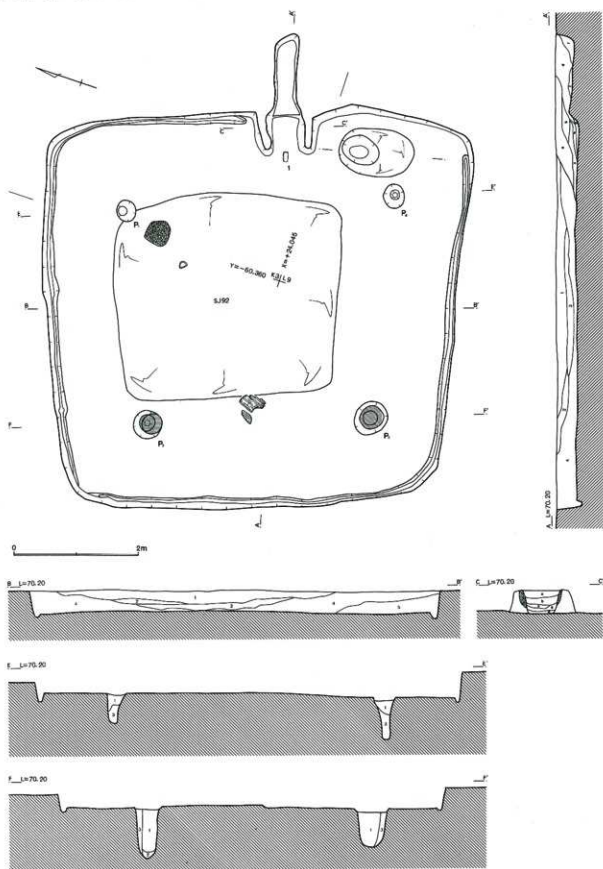
第92号跡 (第147図)

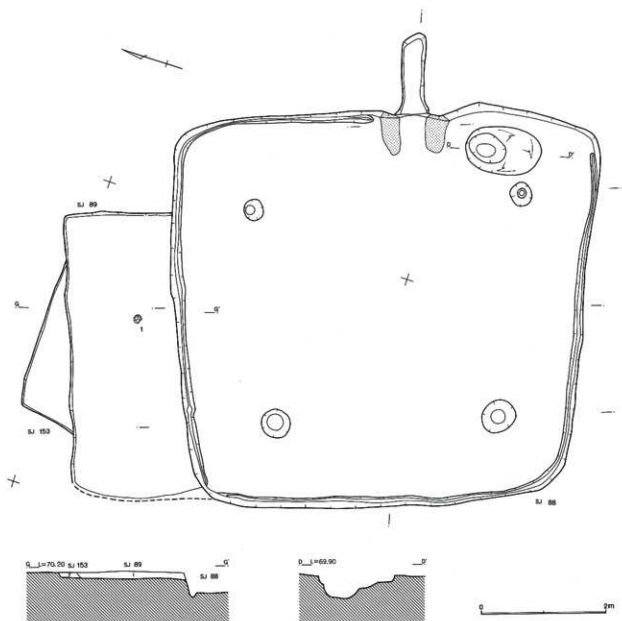
第88号住居跡土層断面によると第4、5層堆積後、埋没過程での再利用が行われたと考えられ、第2、3層中には多量の炭化物、焼土が含まれていた。

分布範囲は略長方形を呈し(住居跡中央の長方形範囲で規模は3.72×3.30m)、この範囲を竪穴状遺構として分離し、第92号跡とする。

壁の立ち上がりは不明瞭で、緩い傾斜である。北東隅で焼土(スクリーントーン部分)が出土している。

第147図 第88号住居跡(I)



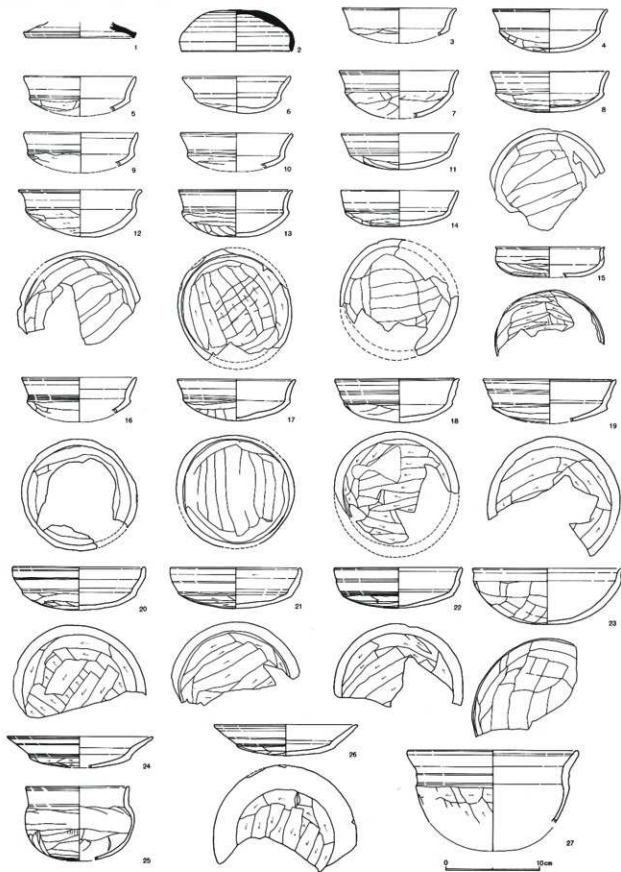


- 1 黒褐色 ローム粒、焼土多、炭化物粒少量
- 2 黄褐色 ローム、焼土、炭化物粒微量
- 3 暗褐色 ローム粒、焼土、炭化物粒多量
- 4 暗褐色 ローム粒多、焼土多量
- a 黒褐色 焼土少、ローム粒、ブロック多、炭化物
- b 暗褐色 焼土、焼土ブロック、ロームブロッ
- c 暗褐色 焼土少、ローム粒、炭化物多量
- d 暗褐色 焼土大量、天井崩落土
- e 暗褐色 焼土、炭化物粒多量
- f 暗褐色 焼土、焼土粒、炭化物多量
- g 黒色 炭化物層、焼土・ローム粒微量多量

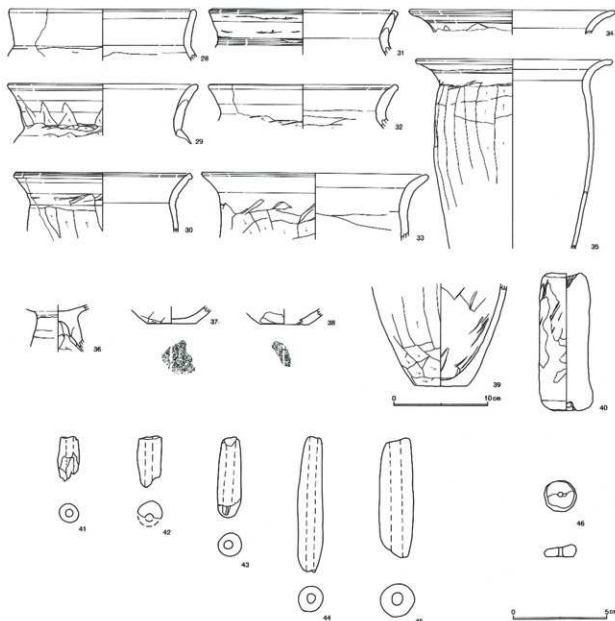
貯蔵穴

- 1 暗灰色 粘性強、ロームブロック多、焼土粒少量
- 1 黒色 ローム粒、ロームブロック多、炭化物少量
- 2 黒色 焼土、炭化物少量

第149図 第88号住居跡出土遺物(1)



第150図 第88号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
11	環	12.0	3.7		A1	A	B	80	埋土	口縁外反、稜部棒状工具+笥削り
12	環	12.8	5.0		A1	A	B	50	埋土	口唇肥厚、稜部棒状工具+笥削り
13	環	12.1	4.9		A1	A	B	80	埋土	口唇肥厚、稜部棒状工具+笥削り、黒斑
14	環	12.3	3.8		A1	A	B	80	埋土	段部工具ナテ、稜部棒状工具+笥削り
15	環	11.6	(3.2)		E2	A	B	40	埋土	口唇沈線、稜部ヨコナテ+笥削り、赤色塗彩
16	環	12.2	(3.8)		A1	A	B	60	埋土	口縁外反、稜部棒状工具+笥削り、内面黒色
17	環	12.5	(4.4)		A1	A	B	90	埋土	砂質、口縁外反、稜部棒状工具+笥削り
18	環	13.2	4.6		C1	A	F	70	埋土	口唇沈線段部工具ナテ稜部工具ナテ+笥削り
19	環	14.1	(4.4)		C1	A	A	60	埋土	口唇沈線段部棒状工具稜部棒状工具+笥削り
20	環	14.0	4.5		C1	A	A	60	埋土	口縁内湾段部沈線、稜部棒状工具+笥削り
22	環	13.6	4.2		A1	A	B	50	埋土	段部棒状工具、稜部棒状工具+笥削り
23	環	15.6	5.8		AC1	A	C	30	埋土	口唇外反、稜部ヨコナテ+笥削り、器内厚い

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
25	椀	(11.0)	(4.6)		A1	A	B	30	埋土	器内薄い、黒斑
26	杯	15.2	3.3		A2	A	E	60	埋土	口唇肥厚、段部沈線、稜部工具+篋削り
27	鉢	18.0	(7.6)		CE2	A	E	25	埋土	段部工具ナデ、稜部ヨコナデ+篋削り
28	甕	(19.6)	(5.4)		E5	B	B	10	埋土	外面二次加熱で灰色変色
29	丸	20.0	(6.3)		E5	A	B	20	埋土	口唇肥厚、頸部縦篋削り痕、器内厚い
30	甕	(18.8)	(6.2)		AE5	A	B	10	埋土	口縁折外反口唇肥厚、頸部縦篋削り痕
31	甕	19.0	(4.8)		AE5	B	B	30	埋土	口唇尖る、頸部縦篋削り痕、外面輪積み痕
32	甕	(20.0)	(4.6)		AE5	A	A	10	埋土	口縁外反、頸部縦篋削り痕、器内厚い
33	甕	24.0	(7.0)		CD2	A	E	25	埋土	口縁外反、頸部縦篋削り痕、器内厚い
34	甕	21.5	(2.5)		CE2	A	E	60	埋土	口縁外反、頸部縦篋削り痕、器内薄い
35	甕	21.0	(20.1)		C1	B	B	50	埋土	口縁大きく外反、頸部縦篋削り痕、器内薄い
36	高環脚部		(4.9)		AE1	A	C	60	埋土	内面篋削り
37	甕底部		(1.8)	5.0	C1	A	E	20	埋土	平底、底面木葉痕
38	甕底部		(1.7)	(5.0)	C1	A	E	10	埋土	平底、底面木葉痕
39	甕底部		(10.9)	5.7	C1	B	A	60	埋土	平底、篋削り器内厚い、黒斑
40	土製支脚	4.6	14.6	5.4	A1	A	E	90	No.1	円柱状上下面円孔、指頭及び工具ナデ
41	土 鉢	長径(2.4)×最大径1.0×孔径0.4(cm)、重量1.8g								
42	土 鉢	長径(2.6)×最大径(1.3)×孔径(0.4)(cm)、重量2.7g								
43	土 鉢	長径(4.2)×最大径1.2×孔径0.5(cm)、重量5.3g								
44	土 鉢	長径(7.1)×最大径1.25×孔径0.4(cm)、重量12.5g								
45	土 鉢	長径(6.4)×最大径1.85×孔径0.6(cm)、重量20g								
46	白 玉	上径1.2×下径1.4×孔径0.35×厚さ0.65(cm)、重量2.9g								

第89号住居跡(第148図)

本住居跡はK3K9グリッド付近に位置し、第153号住居跡を切り、第88号住居跡によって切られる。

現状では北端部が残存のみである。

平面形は東壁が不明瞭であるが方形乃至長方形と考えられる。規模は4.66×2.20(現在長)m、深さ10cm前後を測る。

主軸方位はN-70°-Eを測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質、地山直上に構築され、掘り方は存在しない。

壁は僅かに傾斜する。壁溝、主柱穴、貯蔵穴等の施

設は存在しない。

出土遺物は少量で環形土器以外に土鉢が1個出土している。

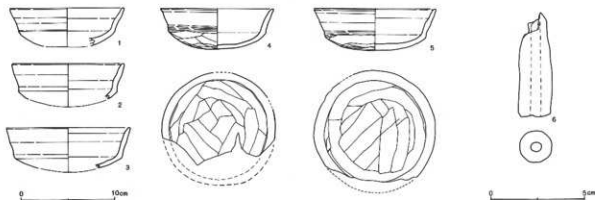
第153号住居跡(第148図)

本住居跡はK3K9グリッド付近に位置し、第89号住居跡によって切られる。現状では三角形の北端部が残存のみで竪穴状遺構とも考えられる。

平面形は方形乃至長方形をなすものと考えられる。

規模は現在長で2.78×1.03m、深さ10cm前後で主軸方位はN-90°-Eを測る。出土遺物はない。

第151図 第89号住居跡出土遺物



第90号住居跡 (第152、153図)

本住居跡はK3L8グリッド付近に位置する。

第7住居跡群の中央部～南側に展開する大形住居跡に周囲を囲まれたような景観を呈する。

新旧関係は、本住居跡が第91、154号住居跡を切り、第88、100、151号住居跡によって切られる。

重複顕著でカマド壁とその対壁しか残存していないが、平面形は略長方形と考えられる。規模は5.17×4.66m、深さ25cmを測る。

主軸方位はN-29°-Wを測る。カマド軸は僅かにずれておりN-25.5°-Wを測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁はほぼ直立し、掘り込みは比較的しっかりしている。

壁溝はカマド壁には存在せず、南壁及び東西壁下に設置される。全体に幅狭く掘り込みはしっかりしている。

柱穴は3本で、北西部分の相当する位置には精査にも関わらず、柱穴は検出できなかった。P1、P3はやや浅い。P2は径60cm、深さ62cmを測る。いずれも柱痕跡は検出されなかった。

柱穴配置は現状では正三角形状で、P3が貯蔵穴に

隣接する。柱穴間隔はP1P2、P2P3ともに2.35m、P1P3が3.31mを測る。

貯蔵穴はカマド右側に設置され、平面形は楕円形状で径0.64×0.53m、深さ0.32mを測る。底面はカマド側がピット状にやや深い。

カマドは北壁やや西よりに設置され、カマド壁はやや歪む。遺存状態は良好である。

燃焼部は内面が良く焼けており、両袖の赤変硬化がみられる。底面平坦。箱形を呈し規模は0.92×0.52m、深さ0.22mを測る。燃焼部奥壁から緩い段をなし煙道部へ移行する。

煙道部は僅かに壁外へ傾斜する。規模は1.18×0.27mを測る。

袖部の構造は、黄灰色粘質土を主体として基部を構築し、灰黒色粘質土を貼り付けるもので、左袖先端部に長妻を設置している。カマド壁は左袖部分はほとんど掘り込まれていないが、右袖部分は大きく壁外に掘り込まれる。

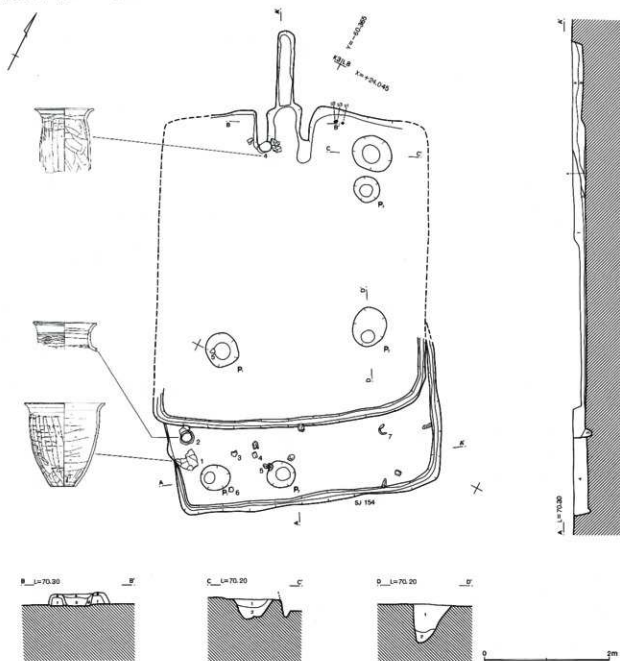
カマド燃焼部内及び右袖の外側部分から、床面から若干浮いた状態で白玉が5個体出土している。

その他坏形土器、鉢形土器、甕形土器以外にミニチュア土器が出土している。

第90号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	ミニチュア	5.5	4.1	2.8	A1	A	B	90	埋土	内外面指頭ナテ、底部周縁未調
2	坏	14.0	4.5		A1	A	A	30	埋土	口唇肥厚、稜部ヨコナテ+笥削り、黒斑
3	坏	(15.0)	(3.8)		AD1	A	B	40	埋土	段部ヨコナテ、稜部工具ナテ+笥削り
4	坏	11.8	4.3		A1	A	B	60	埋土	口縁外傾、稜部棒状工具+笥削り
5	坏	13.2	4.5		A1	A	C	95	埋土	口唇肥厚、稜部ヨコナテ?+笥削り
6	坏	13.8	4.6		A1	A	C	95	埋土	口縁内湾、稜部棒状工具+笥削り、歪み顕著
7	鉢	(23.0)	(6.2)		DE5	B	C	10	埋土	口唇肥厚、稜部ヨコナテ+笥削り、黒斑
8	甕	18.4	(7.8)		AE5	A	B	20	埋土	口唇肥厚、頸部縦笥削り、輪積み痕
9	甕底部		(9.6)	4.3	A1	A	B	80	埋土	上げ底、円環技法か?底面木葉痕
10	甕底部		(1.7)	6.0	A1	A	B	50	埋土	平底、笥削り、外面砂付着
11	甕	19.3	(20.2)		E5	A	B	80	No.4	口縁外反、頸部以下縦笥削り、輪積み痕
12	甕	23.6	(22.6)	(10.6)	E5	A	B	50	埋土	大形単孔、胴部縦笥削り
13	白玉	上径1.3×下径1.25×孔径0.3×厚さ0.3(cm)、重量0.4g								
14	白玉	上径0.9×下径1.3×孔径0.4(cm)、重量1.7g								
15	白玉	上径1.2×下径1.3×孔径0.4×厚さ0.8(cm)、重量1.4g								
16	白玉	上径0.9×下径1.25×孔径0.4×厚さ0.55(cm)、重量1.6g								
17	白玉	上径1.3×下径1.4×孔径0.4×厚さ0.7(cm)、重量1.6g								

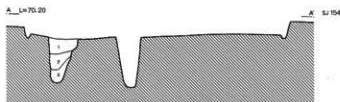
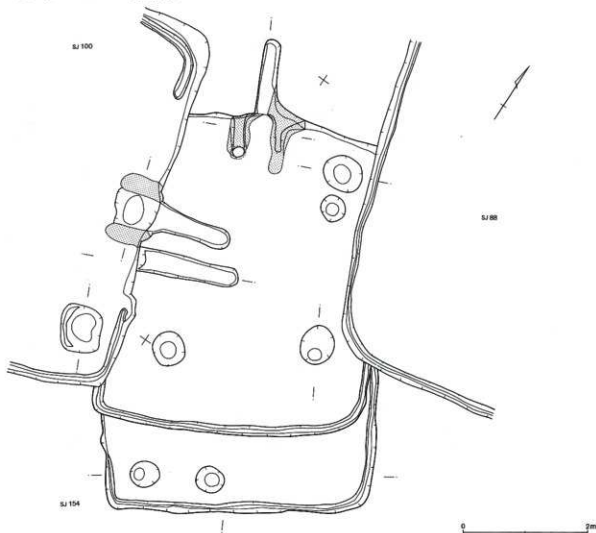
第152図 第90・154号住居跡



- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒、焼土少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム、ローム粒、焼土少量
- a 暗褐色 灰褐色粘土、焼土、焼土粒少量
- b 暗褐色 灰褐色粘土、焼土、焼土ブロック少量
- c 暗褐色 灰褐色粘土、焼土、炭化物少量
- d 紫色 灰褐色粘土、炭化物少量
- e 灰紫色 粘性強、ロームブロック少量
- f 黄灰色 粘性強

- 貯蔵穴
- 1 黒色 粘性強、焼土粒、ロームブロック少量
 - 2 黒灰色 粘性強、ロームブロック多量
- 柱穴
- 1 灰黄色 ローム多量粘性あり、しりまりあり
 - 2 黒色 粘性強、ロームブロック少量
- 柱穴
- 1 黒褐色 ロームブロック大量
 - 2 暗褐色 ロームブロック多量
 - 3 黒褐色 ローム粒、ブロック多量、焼土粒微量

第153図 第90・100・154号住居跡



第151号住居跡 竈土層註

- a 暗褐色 焼土少量、ローム、ローム粒少量
- b 暗赤褐色 焼土、焼土ブロック大量
- c 黒褐色 焼土、焼土粒、焼土ブロック多量

柱穴土層註

- 1 暗黄灰色 粘性強、ロームブロック・ローム粒多量
- 2 黄褐色 粘性強、白色粘土少量含。
- 3 暗灰色 粘性強、ローム粒多量、炭化物少量
- 4 黄灰色 粘性強、マンガング粒少量
- 5 灰色 粘土、ロームブロック少量

貯蔵穴

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土少量
- 2 暗褐色 焼土、焼土粒、焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物、ロームブロック多量
- 4 暗褐色 焼土、焼土粒多量、炭化物少量

第154号住居跡 (第152、153図)

本住居跡は K3M8 グリッド付近に位置し、第88、90号住居跡によって切られる。

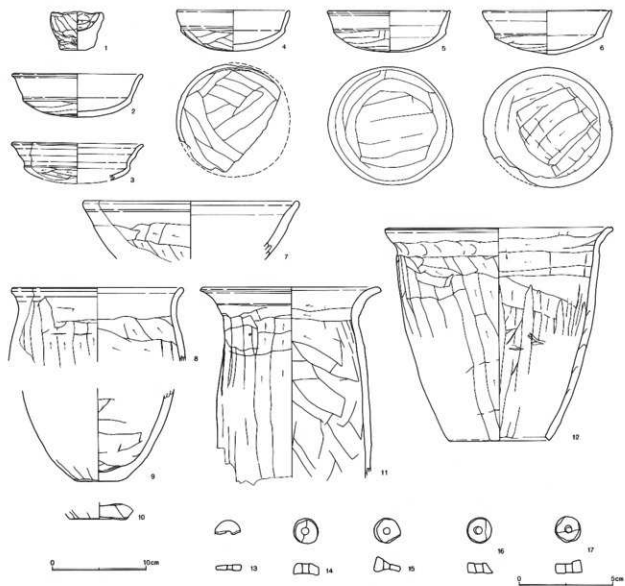
平面形は不明確であるが方形乃至長方形と考えられる。規模は4.48 (東西)×2.34 (南北現在長) m、深さ

24cmを測る。

主軸方位は N-34°-W を測る。第90号住居跡 (N-26.5°-E) とは若干のずれがある。

床面はほぼ平坦で全体に硬質である。地山直上に床面が構築され、掘り方は存在しない。

第154図 第90号住居跡出土遺物



壁は僅かに傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。壁溝は西壁の一部以外に存在する。幅狭く掘り込みはしっかりしている。

柱穴は南西隅部分に2カ所検出された。いずれも大

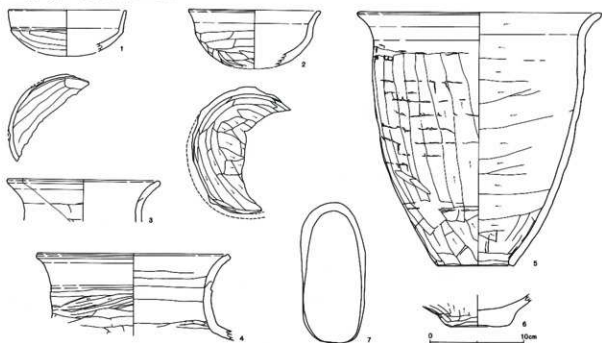
形で深い(径45×深さ70cm)。貯蔵穴等の施設は検出できなかった。

出土遺物は少量であるが編物石2個体が出土している。

第154号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	坏	12.5	(4.4)		A1	A	B	30	No.5	稜部コナテ+鋭削り
2	碗	14.0	(6.0)		A1	A	B	50	No.4, SJ156と接合	口縁外反、体部鋭削り、器肉厚い、黒斑
3	小形甕	(16.3)	(4.4)		A1	A	B	10	埋土	口縁外反、頸部以下鋭削り
4	壺	20.6	(9.0)		A1	A	B	90	No.2	砂質、口縁有段外反、器肉厚い
5	瓶	25.5	26.9	8.3	A2	A	B	80	No.1	大形穿孔、胴部縦鋭削り、輪横み痕、黒斑
6	甕底部		(3.3)	6.6	E5	B	F	80	No.3	凸出やや上げ底、底面鋭削り

第155図 第154号住居跡出土遺物



第91号住居跡 (第156、157図)

本住居跡は K3K7 グリッド付近に位置し、本住居跡が第95、99、152号住居跡を切り、第91号住居跡によって切られる。第100号住居跡と接しており、第88号住居跡とは僅かに距離をおく。

平面形は西壁が整わないが、東、南壁はほぼ直交し、台形乃至略長方形と考えられる。規模は6.35×5.08m、深さ36cmを測る。

主軸方位は N-18°-W を測る。カマド軸は若干ずれており N-29°-W を測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。北東隅で上層から流れ込んだ状態で焼土が検出された。

壁は西壁の検出が困難であったが、ほぼ直立し掘り込みはしっかりしている。

壁溝はカマド壁及び西壁下、南東隅には存在せず、南壁及び東壁下に設置される。全体に掘り込みはしっかりしている。

柱穴は西壁側の2本 (P1、P2) と考えられ、他に深さ5cm前後の浅いピットが2カ所 (P3、P4) 検出された。P1は径27cm、深さ22cmと細くやや浅い。P2は太

く径37cm、深さ70cmを測り、柱痕跡 (径17cm×深さ64cm) が検出された。

柱穴配置は不明確であるが、住居跡主軸にはほぼ並行していたものと考えられる。柱穴間隔は P1P2 が 2.94m を測る。

貯蔵穴は存在しない。

カマドは北壁やや西よりに設置され、カマド壁は住居跡主軸に対してやや斜行する。遺存状態は良好である。

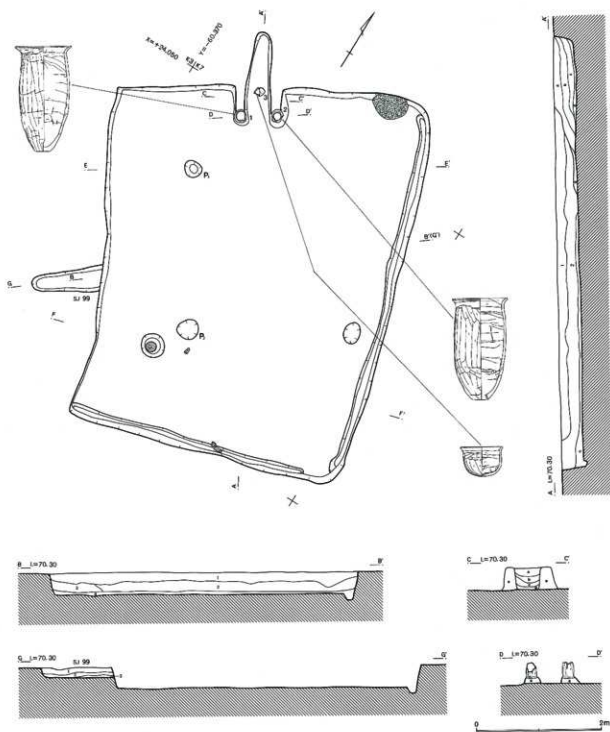
燃焼部は内面が良く焼けており、両袖の赤変硬化がみられる。箱形を呈し、規模は0.66×0.39m、深さ0.35mを測る。内奥部から浮いた状態で椀形土器が出土した。燃焼部から煙道部へは平坦なまま移行する。

煙道部は僅かに斜行し、先端部がやや細い。底面はほぼ平坦。規模は0.84×0.26-0.37mを測る。

袖部の構造は、両袖先端部に長襖を補強し暗褐色粘土を貼り付けて構築される。カマド壁は両袖ともほとんど掘り込まれていない。

環形土器、椀形土器、高環形土器、鉢形土器、甕形土器以外に角四石安山岩製の砥石、編物石、土錘が出土している。

第156図 第91・99号住居跡



- 1 黒褐色シルト 焼土微量、ローム粒、炭化粒微量
 2 暗褐色シルト 焼土、炭化粒少量
 3 黒褐色シルト 焼土少量、ローム粒、ブロック多量
 4 黒褐色シルト 焼土、炭化粒少量
 a 淡灰色粘土 ローム粒、ロームブロック
 b 暗褐色粘質土 ローム粒多量
 c 灰褐色土 ローム粒少量
 d 暗褐色粘質土
 e 暗褐色粘土

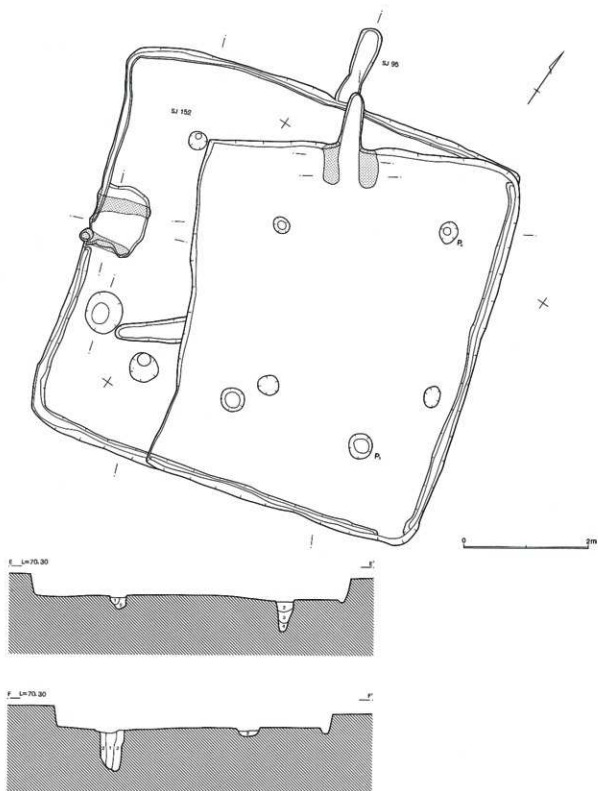
柱穴

- 1 黒色 ローム、ローム粒、焼土少量
 2 黒褐色 ローム、ローム粒多量、炭化物少量
 3 暗黄褐色 粘土質、ローム、ローム粒大量

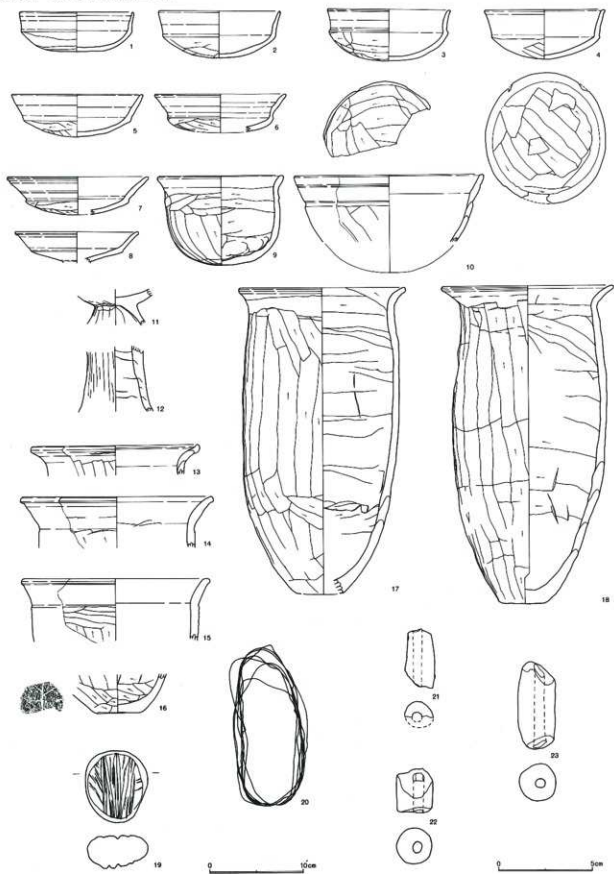
第99号住居跡 竈土層註

- a 暗灰黄褐色 焼土粒、ローム粒、炭化粒少量
 b 暗褐色 焼土、ローム粒、炭化粒少量
 c 暗褐色 ローム粒、炭化物少量

第157図 第91号住居跡(2)、第95・152号住居跡(1)



第158図 第91号住居跡出土遺物



第91号住居跡出土物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	12.0	4.2		A1	A	B	25	埋土	口唇凹む、後部工具ナテ+寛削り、器内薄い
2	環	14.0	(4.0)		A1	A	C	25	埋土	口縁外反、後部ヨコナテ+寛削り、摩滅顯著
3	環	13.0	5.2		A1	A	A	40	埋土	口唇肥厚、後部工具ナテ+寛削り
4	環	15.0	(4.5)		A1	A	C	90	埋土	口唇肥厚、後部棒状工具+寛削り
5	環	13.0	4.9		A1	A	A	25	埋土	後部工具ナテ、後部工具ナテ+寛削り
7	環	14.0	4.5		AC1	A	E	25	埋土	後部棒状工具、後部棒状工具+寛削り
8	高環	13.0	(3.3)		A1	A	C	25	埋土	口唇肥厚、摩滅顯著
9	小形鉢	13.4	9.4	2.6	AE5	B	C	95	Na.3	口縁外反、頸部指頸ナテ、以下縦範削り
10	鉢	(20.2)	(7.1)		E5	A	E	10	埋土	口唇平坦、頸部以下斜め範削り
11	高環脚部		(3.8)		A1	A	B	70	埋土	内面絞り痕
12	高環脚部		(6.9)		A1	A	C	50	埋土	長脚、内面輪痕み痕
13	甕	(18.0)	(3.2)		E5	A	B	10	埋土	口唇直立、頸部以下縦範削り
14	甕	(20.0)	(5.4)		AE5	A	E	10	埋土	口縁外反、頸部以下縦範削り
15	甕	(20.0)	(6.6)		E5	A	B	10	埋土	口縁外反、頸部以下横、縦範削り
16	甕底部		(4.1)	4.8	AE5	A	A	60	埋土	やや上げ底、底面木葉痕
17	甕	17.3	32.5	(5.1)	AE5	A	B	90	Na.2	口唇肥厚、頸部以下縦範削り、平底器内厚い
18	甕	18.0	33.6	5.3	AE5	A	B	90	カマド	口縁外折、頸部以下縦範削り、平底、黒斑
19	砥石?									
21	土 錘	長径(3.2)×最大径(1.5)×孔径(0.5)(cm)、重量3.7g								
22	土 錘	長径(2.4)×最大径1.85×孔径0.5(cm)、重量7g								
23	土 錘	長径(4.6)×最大径2.0×孔径0.5(cm)、重量3.7g								

第99号住居跡(第156、157図)

本住居跡はK3L7グリッド付近に位置する。

大部分が第91号住居跡によって切られ(同住居跡のカマド付け替えの可能性もある)、カマド煙道部のみ残存したものである。

主軸方位はN-133.5°-Wを測る。

出土遺物はない。

第95号住居跡(第157、159図)

本住居跡はK3K7グリッド付近に位置する。

大部分が第152号住居跡によって切られ(同住居跡のカマド付け替えの可能性もある)、カマド煙道部のみ残存したものである。規模は1.22×0.37m、主軸方位はN-15°-Wを測る。

出土遺物はない。

第152号住居跡(第157、159図)

本住居跡はK3K-L7グリッド付近に位置し、第95号住居跡を切り、第68、91、96、99号住居跡によって

切られ、第100号住居跡と接する。西壁はごく新しい溝による擾乱を受けている。

平面形は略方形で、規模は6.83×6.62m、深さ30cmを測る。主軸方位はN-105.5°-Wを測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁は東、南壁が第91号住居跡とほぼ重なる。ほぼ直立し掘り込みはしっかりしている。

壁溝はカマド部分で一部及び南東隅で途切れる他は一巡する。全体に掘り込みはしっかりしている。

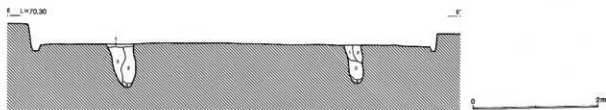
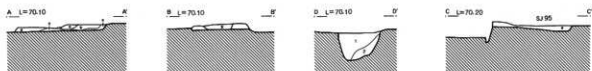
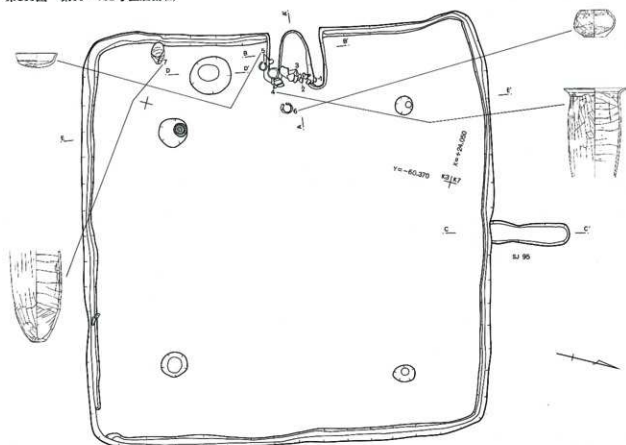
柱穴は4本で、深さはP1が70cm、P3が52cm、P4が62cmと深い。P3は浅い。P1は不明瞭であるが柱痕跡(径16cm×深さ64cm)と考えられる。

柱穴配置はP4がややずれるが略長方形配置と見られる。柱穴間隔はP1P2が3.73m、P2P3が3.71m、P3P4が4.23m、P1P4が3.69mを測る。

貯蔵穴はカマド左側に設置される。平面形は楕円形状で規模は径0.58×0.66m、深さ0.48mを測る。

カマドは西壁ほぼ中央部に設置される。遺存状態は

第159図 第95・152号住居跡(2)



第95号住居跡出土層註

a 黒褐色 焼土、焼土粒、炭化物多量

第152号住居跡出土層註

a 暗灰褐色 粘土

b 暗褐色 粘性強、焼土、焼土粒多量

c 暗赤褐色 焼土、焼土粒大量

d 黒褐色 ローム粒、焼土炭化物多量

柱穴

1 暗褐色 硬質、ロームブロック少量

2 暗褐色 焼土、炭化物少量

3 暗褐色 焼土ブロック大量

4 灰褐色 炭化物、焼土ブロック多量

貯蔵穴

1 暗褐色 ローム、ロームブロック少量

2 黒褐色 ローム、焼土粒、炭化物多量

悪く完全に潰れた状態であった。燃焼部は底面が良く焼けており焚き口部分には土器片が集中していた。規模は0.93×0.54m、深さ0.10mを測る。

煙道部は擾乱により不明である。

袖部の構造は、地山を僅かに掘りくぼめ、左袖先端部に長襖を補強し暗灰褐色粘土を貼り付けて構築される。カマド壁は両袖とも掘り込まれていない。

第93号住居跡 (第161図)

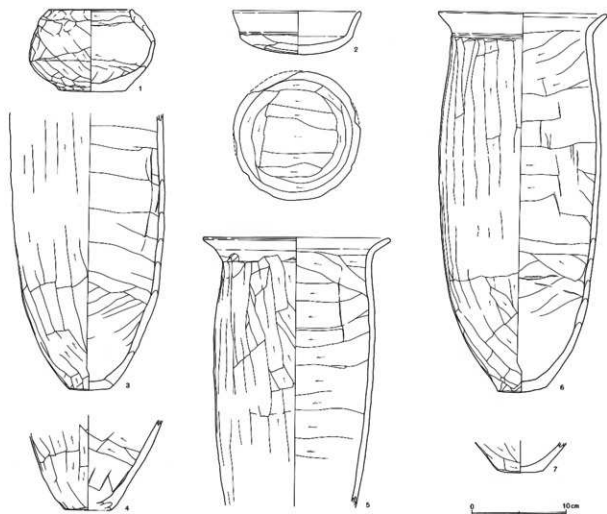
本住居跡は K3L10~11 グリッド付近に位置する。

第94号住居跡を切り、第85、86、87号住居跡によって切られ、第88号住居跡カマド煙道部と接する。

平面形は平行四辺形乃至長方形で、規模は5.93×5.81m、深さ45cmを測る。

長軸方位は N-101.5°-W を測る。カマド軸は若

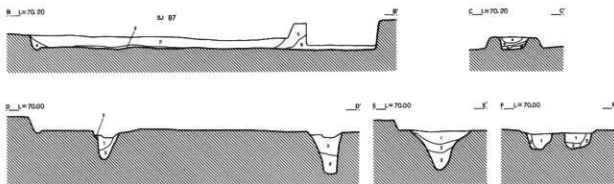
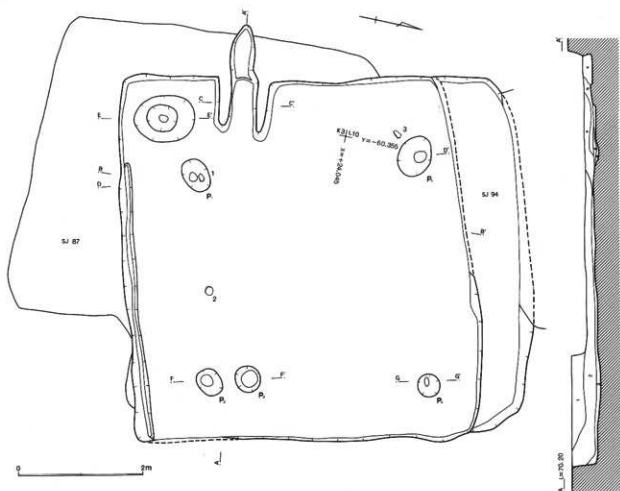
第160図 第152号住居跡出土遺物



第152号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	碗	8.7	8.7	7.0	AES	B	B	90	№6	口縁湾曲、体部指頸ナデ、甕割り、器肉厚い
2	坏	13.5	4.6		AES	A	B	80	№5	口縁外反、稜部ココナデ+甕割り、器肉厚い
3	甕		(29.2)	4.5	AES	A	B	70	№7	平底甕割り器肉厚い、胴部縦甕割り、黒斑
5	甕	20.0	(28.4)		ES	A	B	70	№4	口縁屈曲外反、頸部以下縦甕割り、黒斑
4	甕底部		(10.0)	(5.0)	E5	A	B	50	埋土	平底甕割り、胴部縦甕割り
6	甕	17.8	42.6	5.2	E5	A	B	50	№3	口縁屈曲外反、頸部以下縦甕割り
7	甕底部		(3.4)	5.0	ES	A	A	60	埋土	小形平底、底面甕割り

第161図 第93・94号住居跡



- 1 黒褐色 粘性強、焼土粒、炭化物少量
- 2 暗褐色 焼土粒、炭化粒多量
- 3 暗褐色 ローム粒多量、焼土多量
- 4 暗褐色 ローム粒、焼土粒、炭化物少量
- 5 暗褐色 焼土粒多量
- 6 黒褐色 焼土粒、炭化粒少量
- a 黒褐色 焼土、焼土ブロック多量、炭化物少量
- b 暗褐色 焼土粒、炭化物多量、灰褐色粘土少量
- c 暗褐色 焼土多量、灰褐色粘土多量
- d 黒色 炭化物、炭化材多量
- e 暗褐色 焼土、焼土粒、灰褐色粘土多量

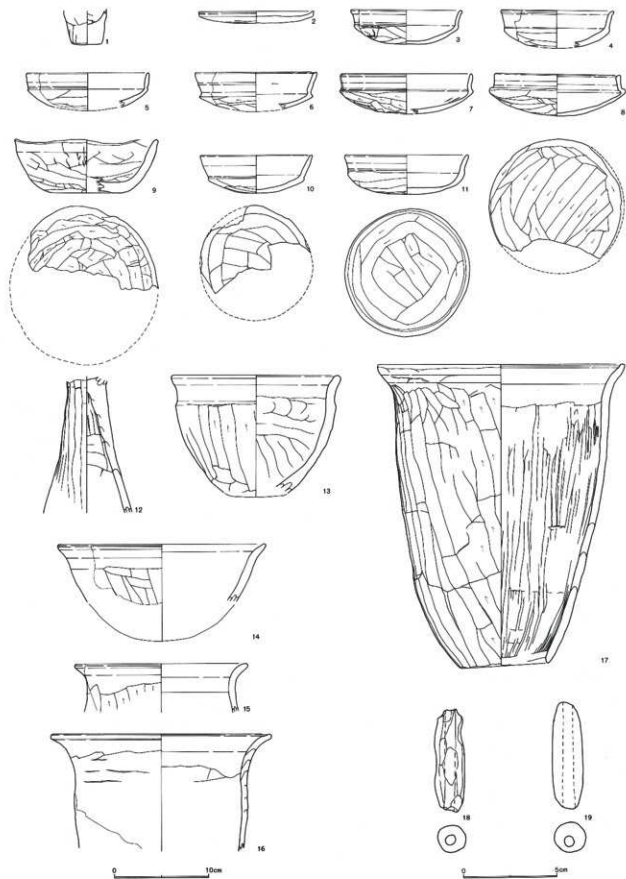
貯蔵穴

- 1 黒褐色 ローム、ローム粒、ロームブロック多量
- 2 黒褐色 焼土少量
- 3 黒褐色 炭化物少量

柱穴

- 1 暗褐色 ローム粒、ロームブロック多量
- 2 黒褐色 炭化物、土器粒
- 3 暗褐色 粘土質

第162図 第93号住居跡出土遺物



干ずれており N-98.5°-W を測る

床面はやや凹凸が認められる。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁は北壁以外が第94号住居跡とほぼ重なる。重複顯著で遺存状態は悪いが、残存する部分にはほぼ直立し掘り込みはしっかりしている。

壁溝は南壁下東側に存在し、その他の部分は存在しない。全体に幅狭く掘り込みはしっかりしている。

柱穴は5本で、南側の3本は浅く P1 が45cm、P2、P3 が32cm を測る。北側の P4 は62cm、P5 は68cm と深い。P4 は不明瞭であるが柱痕跡(径12cm)と考えられる。

第93号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	ミニチュア		(3.7)	3.0	E2	B	B	60	埋土	底部凸出、器内厚い
2	皿	12.2	1.2		E1	A	A	40	埋土	口唇僅かに直立
3	杯	11.7	3.5		A1	A	B	25	埋土	口唇肥厚、後部ヨコナテ+寛削り、器内薄い
4	杯	(12.0)	(3.9)		A1	A	C	20	貯蔵穴	口唇肥厚外反、後部ヨコナテ+寛削り
5	杯	(13.0)	(3.6)		AD1	A	B	20	貯蔵穴	口唇やや肥厚、後部ヨコナテ+寛削り
6	杯	(12.8)	(3.9)		A1	A	B	20	埋土	口唇沈線段部ヨコナテ後部ヨコナテ+寛削り
7	杯	13.8	(4.2)		A1	A	A	30	埋土	口唇尖る、後部工具ナテ+寛削り
8	杯	13.3	4.4		D1	A	F	70	埋土	後部棒状工具+寛削り、黒斑、内面極平滑
9	杯	15.0	(5.4)	(7.8)	CE5	A	A	40	Na 1	口縁波状?体-底部寛削り、内面炭化物付着
10	杯	11.9	4.1		AC1	A	E	50	埋土	砂質、口縁やや内湾、後部棒状工具+寛削り
11	杯	13.0	4.2		A1	A	C	100	Na 2	口縁外反、後部棒状工具+寛削り、摩滅顯著
12	高環脚部		(14.3)		AC1	B	B	70	Na 3 ?	内外面寛削り、輪積み痕
13	鉢	18.0	(12.4)	(5.8)	AD5	A	B	20	埋土	口縁外反、外面寛削り、器内厚い
14	鉢	(22.1)	(6.0)		AD2	A	A	50	埋土	口縁外反、外面輪積み痕、器内厚い
15	甕	(18.4)	(5.2)		E5	A	B	25	埋土	口縁外反、頸部以下縦寛削り
16	甕	23.3	(12.5)		AD5	B	B	25	埋土	口縁外反、頸部以下縦寛削り、二次加熱
17	甕	26.0	31.9	9.5	A2	A	B	80	貯蔵穴+埋土	口唇直立、頸部以下縦寛削り、大形穿孔
18	土 鏝	長径(5.4)×最大径1.0×孔径0.5(cm)、重量10.7g								
19	土 鏝	長径5.7×最大径1.6×孔径0.5(cm)、重量12.8g								

第94号住居跡 (第161図)

本住居跡は K3L10-11 グリッド付近に位置する。

第93号住居跡によって大部分を切られる。北壁付近が残存するのみで、他の壁は第93号住居跡とほぼ重なる。床もほぼ同一面であり同住居跡の拡張の可能性がある。カマド等の施設は検出できなかった。

規模は5.78×1.60(現在長)mを測る。長軸方位は N-101.5°-W を測る。出土遺物はない。

柱穴配置は P5 がややずれるが略長方形で、柱穴間隔は P1P2 が3.29m、P1P3 が3.41m、P2P4 が3.50m、P4P5 が3.61m、P1P5 が3.67m を測る。

貯蔵穴はカマド左側に設置される。平面形は楕円形状で中心部が深い。規模は径0.96×0.77m、深さ0.62mを測る。

カマドは西壁南よりに設置される。燃焼部底面から側面は良く焼けている。規模は0.43×1.01m、深さ0.20mを測る。奥壁から段をなし煙道部に移行する。

煙道部はやや短く0.84×0.40mを測る。

袖部下半部は、地山を掘り残している。

第96号住居跡 (第163図)

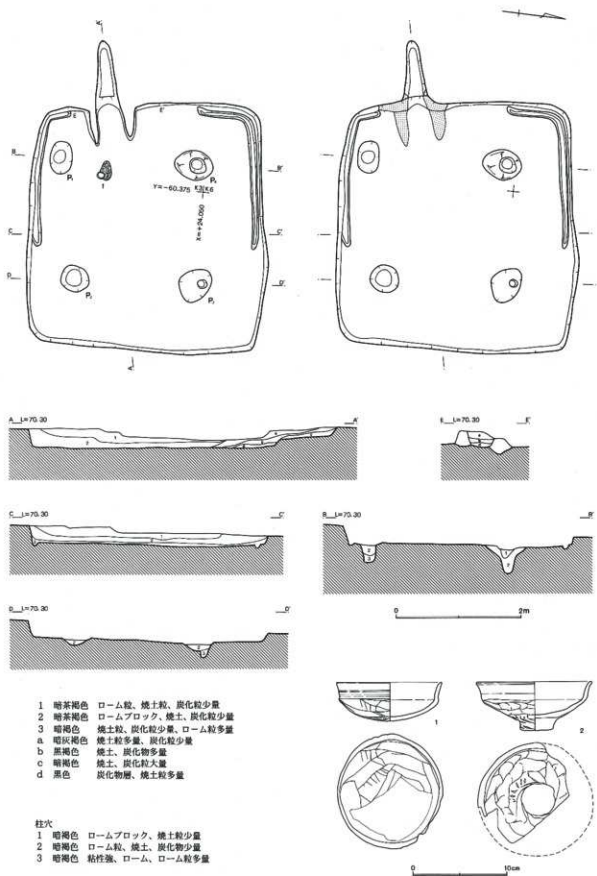
本住居跡は K3K6 グリッド付近に位置し、第7住居跡群の北西隅部、小形住居跡が分布する位置に存在する。

新旧関係は本住居跡が第152号住居跡を切り、第68号住居跡によって切られる。

平面形は北壁が歪むが、略方形。規模は4.04×3.96m、深さ31cmを測る。

主軸方位は N-96°-W を測る。カマド軸は若干ず

第163図 第96号住居跡・出土遺物



れており N-99.5°-W を測る。

床面はほぼ平坦で、掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁はほぼ直立し、掘り込みは比較的しっかりしている。壁溝は西壁のカマド部分以外及び南、北壁の西半分に設置される。全体に幅狭く掘り込みはしっかりしている。貯蔵穴は存在しない。

柱穴は4本で、東壁側の2本が浅い。P2は12cm、P3は中心からややずれてビット状で25cm、西側の2本は楕円形状でP4が32cm、P4が44cmを測る。いずれも柱痕跡は検出されていない。

柱穴配置は全体に南側に片寄っており、P1がややずれる。柱穴間隔はP1P2が1.98m、P2P3が2.05m、P3P4が1.88m、P1P4が2.19mを測る。

カマドは西壁南よりに設置され、カマド部分の壁が住居跡主軸に対してやや斜行する。第68号住居跡による攪乱で遺存状態は悪い。

燃焼部は内面が比較的良く焼けている。箱形を呈し、規模は0.78×0.43m、深さ0.26mを測る。燃焼部奥壁から段をなし煙道部へ移行する。

煙道部は緩く傾斜し、先端部に向かって細くなる。規模は0.90×0.34-0.20mを測る。

袖部は両袖とも暗褐色粘質土を貼り付けて構築される。カマド壁は両袖ともわずかに掘り込まれる。

図示できる遺物は不彩土器2個体のみで、2は底部粘土貼り付けか。

第97号住居跡 (第164、165図)

本住居跡はK3L-M6グリッド付近に位置する。

第7住居跡群の西端部に位置し、南側に存在する大形住居跡の分布範囲に属する。新旧関係は本住居跡が第98号住居跡によって切られる。カマド煙道部が第100号住居跡と接近し、第96号住居跡とは僅かに距離をおく。

平面形は南東部分が重複により不明瞭であるが、略方形と考えられる。規模は6.21×5.96m、深さ40cmを測る。

主軸方位はN-73°-Eを測る。

床面はやや凹凸が認められるが全体に硬質で、第98号住居跡とはほぼ同一面をなす。不明瞭であるがP1から北壁に向かって、間仕切り状の直線状に落ち込みが認められた。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。床面出土遺物は少量で、主に北壁周辺部から出土している。

壁は残存する部分ではほぼ直立し、掘り込みはしっかりしている。カマド右側壁は、第98号住居跡とはほぼ重なる。

壁溝はカマド部分から南東隅を除き一巡する。南壁部分は第98号住居跡床面で検出された。全体に幅狭く、掘り込みはしっかりしている。

柱穴は3本で、南西隅の相当する部分には精査にもかかわらず柱穴は検出されなかった。北側の2本は大きくP1が径40cm、深さ85cm、P2が径60×45cm、深さ80cmを測る。P3は径32×28cm、深さ67cmを測る。柱痕跡がP2で検出された。P1は不明瞭である。

柱穴配置は現状では三角形状であるが、住居跡主軸にほぼ並行するやや中心部によった長方形状をなしていた考えられる。柱穴間隔はP1P2が2.89m、P1P3が2.58m、P2P3が3.89mを測る。

貯蔵穴は存在しない。

カマドは東壁やや南よりに設置される。第98号住居跡によって、燃焼部及び袖部の大部分が破壊されており遺存状態は悪い。

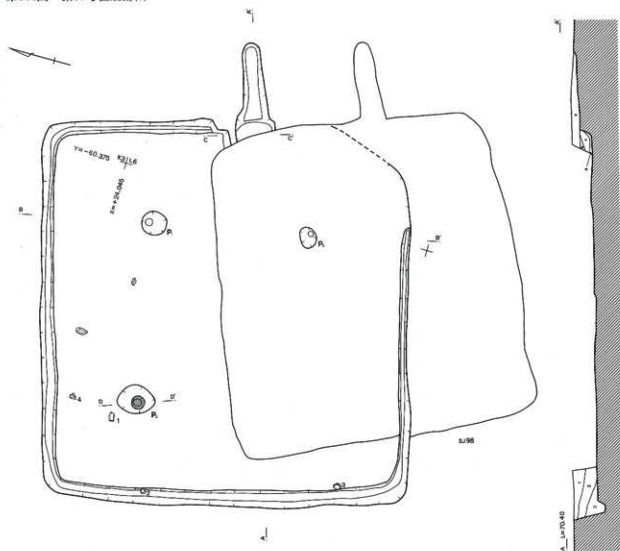
燃焼部は残存部分では比較的良く焼けている。箱形と考えられ、規模は現状で0.48×0.60m、深さ0.32mを測る。燃焼部奥壁から段をなして煙道部へ移行する。

煙道部底面は壁外に向かって緩く傾斜し、先端部がやや細くなる。規模は1.23×0.30-0.42mを測る。

袖部は左袖下まで巡る壁溝を埋め戻し、暗褐色粘質土を貼り付けて構築される。カマド壁は両袖ともほとんど掘り込まれていない。

不彩土器、椀形土器、鉢形土器、甕形土器、甕形土器以外にミニチュア土器、土製支脚、編物石片2個体、土鎌1個体が出土している。

第164図 第97号住居跡(1)



0 2m

B, L=70.40



C, L=70.40



D, L=70.10

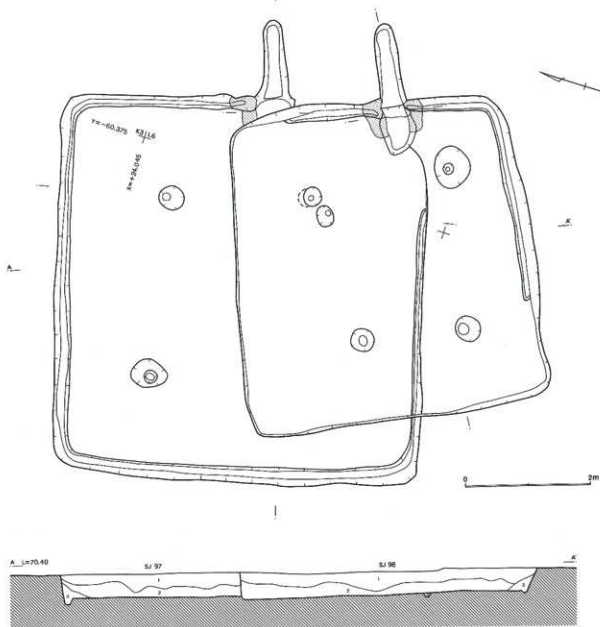


- 1 暗褐色 ローム粒、焼土少量
- 2 暗褐色 ローム粒多量
- 3 暗褐色 粘性強、ローム粒少量
- a 灰褐色 粘土
- b 暗褐色 焼土粒、炭化物少量
- c 赤褐色 焼土、焼土ブロック多量
- d 暗褐色 焼土、炭化物多量

柱穴

- 1 黄灰褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ローム、ローム粒多量
- 3 黒褐色 ローム粒、ロームブロック多量

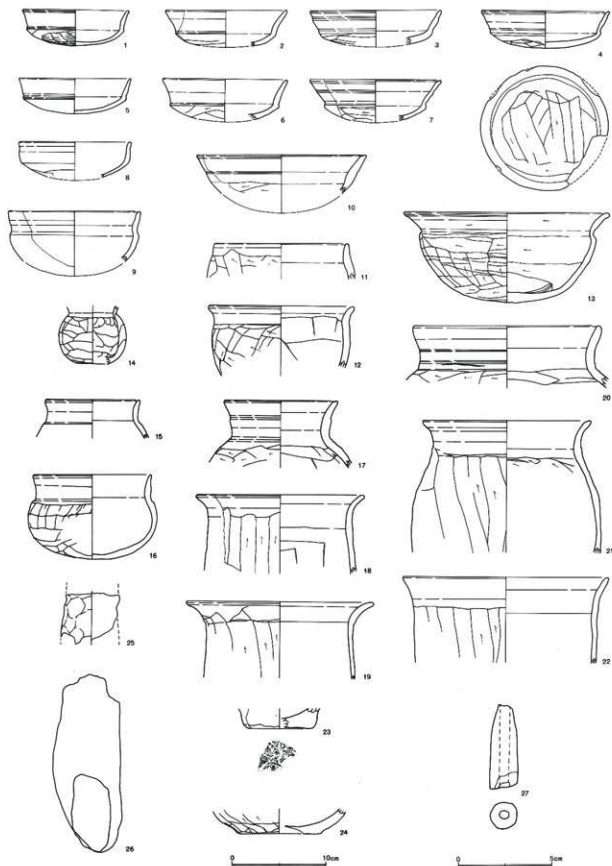
第165図 第97号住居跡(2)、第98号住居跡(1)



第97号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	11.3	3.8		A1	A	C	25	埋土	口唇肥厚、後部工具ナテ+範削り、摩滅顯著
2	環	13.0	(3.8)		A1	A	E	20	埋土	口縁曲折外反、後部ヨコナテ+範削り
3	環	14.0	(3.7)		A1	A	A	30	埋土	後部ヨコナテ、後部ヨコナテ+範削り
4	環	13.7	4.0		A1	A	B	90	No.3	口唇肥厚、後部ヨコナテ+範削り
5	環	12.0	3.7		A1	A	C	20	埋土	口縁外反、後部棒状工具+範削り、摩滅顯著
6	環	13.3	(4.2)		A1	A	E	40	埋土	口縁外反、後部ヨコナテ+範削り
7	環	(14.0)	(4.3)		A1	B	A	10	埋土	口唇沈線肥厚後部沈線後部棒状工具+範削り
8	環	12.0	(3.8)		A1	A	C	25	埋土	口縁直立、後部ヨコナテ+範削り、摩滅顯著
9	環	(14.0)	(5.4)		A1	A	E	20	埋土	口縁内湾、後部ヨコナテ+範削り
10	環	(18.0)	4.1		C1	B	E	10	埋土	口唇肥厚、後部沈線、後部ヨコナテ+範削り

第166図 第97号住居跡出土遺物



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
11	椀	14.3	(3.8)		A5	A	A	30	埋土	口縁内湾、頸部以下縦割り、器内厚い
12	鉢	15.5	(7.5)		E5	B	A	60	No.1	口縁外反、頸部以下斜め、横割り
13	鉢	21.9	9.5		E5	A	A	70	埋土	口縁曲外反、頸部以下縦割り
14	ミニチュア		(6.3)	(3.5)	A1	A	B	50	No.2	球形胴部頸部直立、器内厚い
15	小形壺	10.0	(4.2)		A1	A	E	20	埋土	口縁短く外反、段部ヨコナテ+横割り
16	小形壺	12.5	9.0		A5	A	C	80	埋土	口縁有段直立、頸部棒状工具+段割り
17	小形壺	12.2	(7.2)		E2	A	B	30	埋土	口縁有段直立、段部ヨコナテ、体部横割り
18	壺	(18.0)	(8.4)		AE5	B	B	20	埋土	口縁外反、頸部縦割りによる段
19	壺	20.0	(8.1)		A5	A	B	10	埋土	口縁外反、頸部以下縦割り
20	壺	20.0	(6.6)		E5	A	A	60	埋土、S98と接合	口縁やや外反、頸部横割り、器内厚い
21	壺	18.0	(14.0)		E5	A	B	20	埋土	口縁有段外反、頸部以下縦割り
22	壺	22.0	(9.1)		E5	B	B	20	埋土	口縁やや外反、頸部以下縦割り
23	甕底部		(2.1)	(7.0)	E5	B	B	10	埋土	平底、底面木葉器、器内厚い
24	甕底部		(2.7)	(9.0)	E5	B	B	30	埋土	ほぼ平底、器内厚い
25	土製支脚		(5.5)		CE2	A	E	50	埋土	円柱状、中実
27	土 鏝	長さ(4.5)×最大径1.4×孔径0.5(cm)、重量7.9g								

第98号住居跡(第164、165、167図)

本住居跡はK3L～M6グリッド付に位置する。

第7住居跡群の南西端部に位置し、住居跡群南側に存在する大形住居跡の分布範囲内にある。

新旧関係は本住居跡が第98号住居跡の南半部を切る。本住居跡カマド煙道先端部が第100号住居跡を切り住居跡本体とは僅かに距離をおく。

平面形はカマド対壁がやや長い台形乃至略方形で、規模は5.20×4.89m、深さ40cmを測る。

主軸方位はN-64°-Eを測る。

床面はやや凹凸が認められ、僅かに第97号住居跡より低く全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。床面出土遺物は南壁下及び主に西壁下から柱穴(P2P3)間で出土している。その他炭化物、炭化材が北西隅部分から床面密着状態で検出された。

壁は残存する部分ではほぼ直立し、掘り込みはしっかりしている。カマド左側壁は、第97号住居跡と重なり同居居跡カマドを切っている。

壁溝はカマド左壁下から燃焼部を除いて南東壁まで設置される。全体に幅狭く、掘り込みはしっかりしている。

柱穴は4本で、北西隅のP2が浅く他の3本は深い。カマド寄りの2本はP1が径30cm、深さ80cm、P4が径66×56cm、深さ72cmを測る。柱痕跡がP1で検出され

た。P4は不明瞭である。カマド対壁寄りの2本はP2は径40cm、深さ18cm、P3が径38×42cm、深さ70cmを測る。P3は底面からやや浮いた状態で大形の河原石が検出された。

柱穴配置は、北西部のP2がやや南側にずれる台形状の配置をなす。柱穴間隔はP1P2が2.40m、P2P3が1.56m、P3P4が2.55m、P1P4が2.23mを測る。

貯蔵穴は存在しない。

カマドは東壁やや南よりに設置される。カマド壁とカマド主軸は直交するわけではなく、わずかに角度(85°)を持っている。遺存状態は良好である。

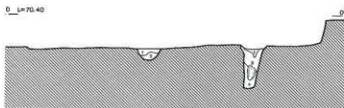
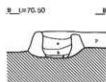
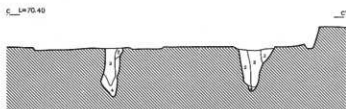
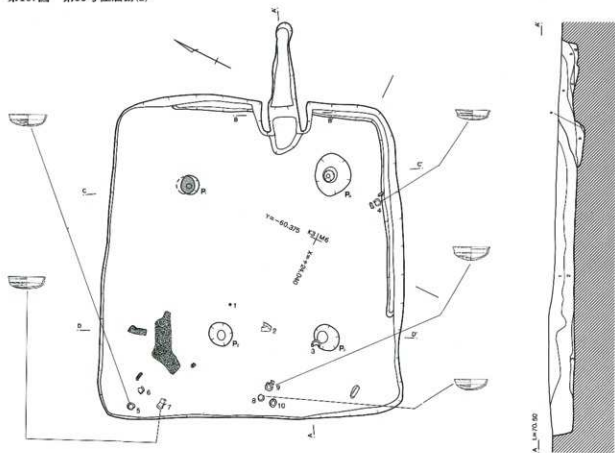
燃焼部底面は比較的良く焼けており、楕円形状(径64×56cm)の掘り込みを持つ。箱形と考えられ、規模は現状で0.44×0.46m、深さ0.42mを測る。燃焼部奥壁から段をなして煙道部へ移行する。

煙道部は先端部煙出し口(径28cm)が僅かに残存しやや細くなる。底面は壁外に向かって緩く傾斜する。規模は1.34×0.38mを測る。

袖部は両袖下まで設置された壁溝を埋め戻し、暗褐色粘質土を主体にして構築される。カマド壁は左袖が僅かに掘り込まれる程度である。

須恵器蓋及び灰身はいずれも埋土中の出土である。土師器は小形の外反する環形土器を主体に、鉢形土器、甕形土器等が出土している。また細身の土鏝3個体と白玉片1個体が出土している。

第167図 第98号住居跡(2)



- 1 黒褐色 ローム粒、焼土粒、炭化物少量
 2 暗褐色 ロームブロック多、焼土粒、炭化物微量
 3 暗灰褐色 粘土、ローム粒少量
 a 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
 b 暗灰褐色 柱柱有、焼土粒、炭化物多量、天井部
 c 黒褐色 粘性強
 d 黒褐色 炭化物顆、焼土粒少量
 e 黒褐色 焼土粒、炭化物、ローム粒少量

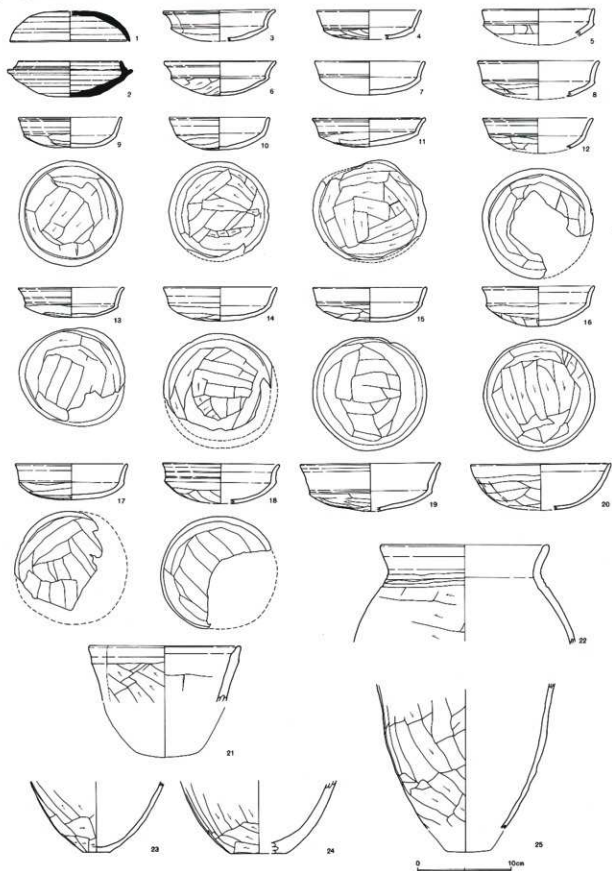
柱穴

- 1 黒褐色 ローム、ロームブロック多量、焼土少量
 2 暗褐色 ローム、ローム粒多量、焼土、炭化物少量
 3 黒褐色 ローム、ローム粒少量、炭化物少量
 4 暗灰褐色 粘土

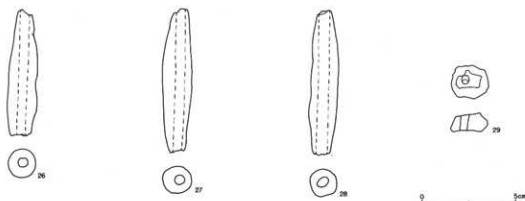
第98号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	挽成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵蓋	12.8	(3.2)		F1	A	I	50	埋土	口口右回転、天井部削り
2	須恵環	11.0	3.8		F1	A	I	50	埋土	口口右回転、体下半部削り
3	環	(12.0)	(3.2)		E1	A	B	20	埋土	口唇肥厚外反、稜部棒状工具+削り
4	環	11.2	(3.1)		A1	A	E	30	埋土	口唇肥厚、稜部棒状工具+削り、器内薄い
5	環	12.0	(2.9)		Cl	A	A	25	埋土	稜部ヨコナデ+削り、器内厚い

第168図 第98号住居跡出土遺物(1)



第169図 第98号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
6	環	12.0	3.6		A1	B	F	20	埋土	口縁外反、稜部棒状工具+笥削り、器肉薄い
7	環	11.7	3.6		A1	A	C	50	埋土	口縁外反、稜部棒状工具+笥削り
8	環	13.0	(3.8)		A1	A	E	40	埋土	口縁やや外反、稜部棒状工具+笥削り
9	環	11.1	3.2		A1	A	E	95	カマド	口唇やや肥厚、稜部棒状工具+笥削り
10	環	10.8	3.5		A1	A	E	90	No.8	口唇やや肥厚、稜部ヨコナデ+笥削り
11	環	12.0	3.0		A5	B	B	90	埋土	口唇肥厚稜部棒状工具+笥削り二次加熱変色
12	環	11.8	(3.2)		A1	B	C	70	埋土	口唇肥厚、稜部ヨコナデ+笥削り、黒斑
13	環	11.3	3.2		A5	B	C	80	No.4	口唇肥厚、段部沈線、稜部棒状工具+笥削り
14	環	12.2	3.6		A1	A	C	80	埋土	口縁外反、稜部ヨコナデ+笥削り
15	環	12.1	3.6		A1	A	C	99	No.5	稜部棒状工具+笥削り、厚減頭者
16	環	12.0	4.2		A5	A	C	95	No.9	口縁屈曲外反稜部工具ナデ+笥削り二次加熱
17	環	12.0	3.8		A1	A	B	60	No.7	口縁外反、稜部ヨコナデ+笥削り
18	環	12.4	(4.2)		AD1	A	B	60	No.3	段部沈線、稜部工具ナデ+笥削り
19	環	15.0	(5.0)		A1	B	B	30	埋土	段部ヨコナデ、稜部ヨコナデ+笥削り
20	環	15.0	(4.9)		A1	A	C	50	埋土	口縁直立、稜部ヨコナデ+笥削り
21	鉢	(16.2)	(5.8)		D2	A	B	10	埋土	口縁直立、体部斜め笥削り、器肉厚い
22	丸 甕	18.0	(10.5)		A5	A	B	50	埋土	口縁外反、頸段部以下横笥削り
23	甕 底部		(7.5)	2.9	CD2	A	A	70	埋土	小形平底笥削り、器肉薄い
24	甕 底部		(7.7)	(6.0)	AE2	A	A	30	埋土	平底笥削り、器肉厚い
25	甕 胴部		(17.8)	(4.8)	CD2	A	F	40	No.2	胴部縦、斜め笥削り、器肉薄い
26	土 鉢	長径(6.7)×最大径1.4×孔径0.5(cm)、重量12.9g								
27	土 鉢	長径(7.6)×最大径1.5×孔径0.5(cm)、重量13.5g								
28	土 鉢	長径(7.7)×最大径1.4×孔径0.55(cm)、重量13.8g								
29	白 玉	上径1.3×下径1.6×孔径0.45×厚さ1.0(cm)、重量4.5g								

第100号住居跡 (第153、170図)

本住居跡はK3M7~8グリッド付近に位置する。

第7住居跡群の南側に存在する大形住居跡の分布範囲にあり、本住居跡以南は狭い遺構空白域となる。

新旧関係は本住居跡が第90、151号住居跡を切り、第98号住居跡によって切られる。第91、152号住居跡とはかろうじて重複しておらず、約10cm前後の間隔をおいている。

平面形は南、北壁がやや斜行する台形状乃至略方形

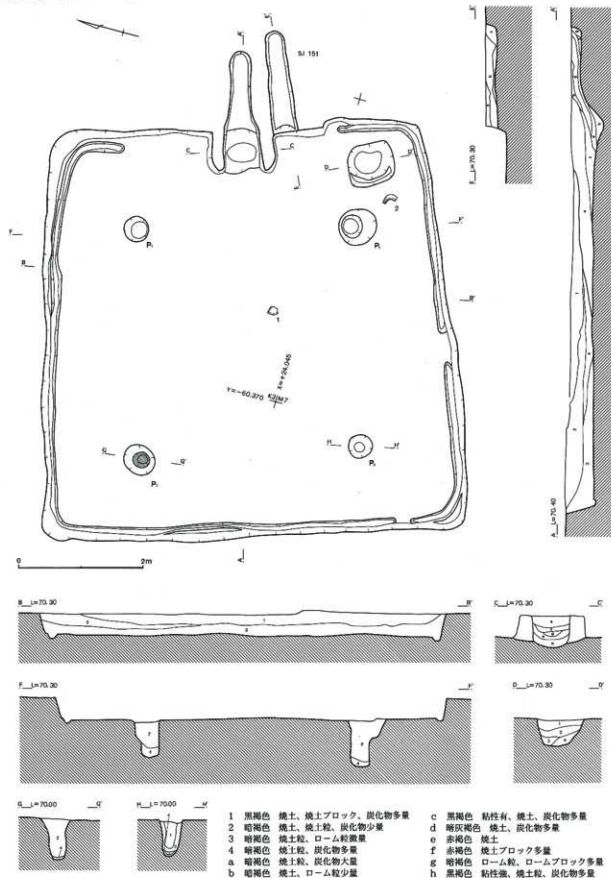
で、規模は6.79×6.74m、深さ37cmを測る。

主軸方位はN-74°-Eを測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質であるが、特に西壁下は堅緻である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。床面出土遺物は少量で大半は埋土中の出土である。

壁は僅かに傾斜するが、掘り込みはしっかりしている。カマド右側壁は第151号住居跡カマドを切っている。

第170図 第100・151号住居跡



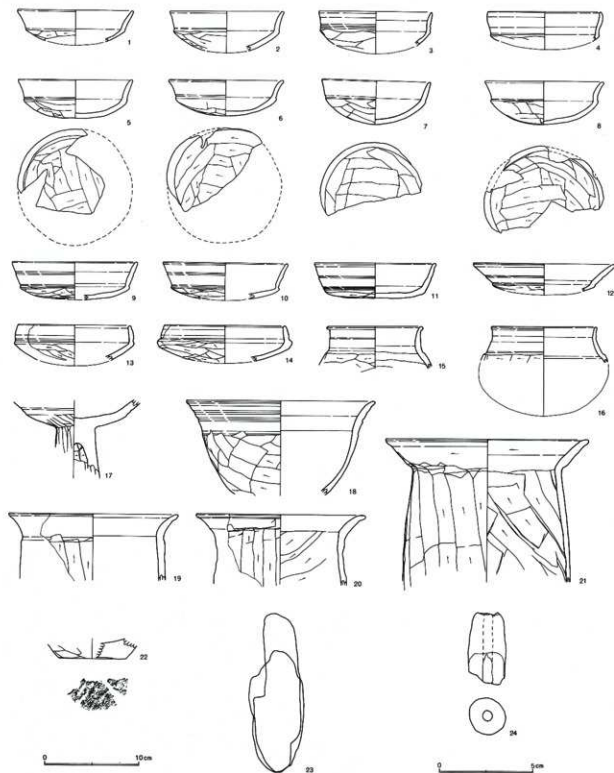
壁溝はカマド両側と南壁(ほぼ中央部分及び西壁の一部を除いて)設置される。全体に幅狭く、掘り込みはしっかりしている。

柱穴は4本でいずれも大形で深い。埋土は4層に分

割され1、3層が柱痕跡、2、4層が黒褐色土を主体とする流入土層と考えられる。

柱穴配置はほぼ方形配置をなす。柱穴間隔はP1P2、P3P4が3.60m、P2P3、P1P4が3.44mを測る。

第171図 第100号住居跡出土遺物



貯蔵穴はカマド右側南よりに位置し、規模は0.74×0.65m、深さ45cmを測り、長方形を呈する。埋土は4層に分割される。

カマドは東壁はほぼ中央部に設置され、遺存状態は良好である。

燃焼部底面は比較的良く焼けており、楕円形状（径70×60cm）に凹む。箱形と考えられ、規模は0.56×0.73m、深さ0.50mを測る。燃焼部奥壁から段をなして煙第100号住居跡出土遺物観察表

道部へ移行する。煙道部底面は壁外に向かって僅かに傾斜する。規模は1.23×0.34mを測る。袖部はカマド壁両袖部分をわずかに掘り込み、暗褐色粘質土を主体にして構築される。

図示した以外の破片総数は1,316点である。環形土器384点、高環形土器脚部4点、甕形土器933点である。

その他貝果穴状泥岩3個体(総重量5.05g)、編物石2個体、土錘1個体が出土している。

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	12.3	(3.2)		A1	A	C	25	埋土	口縁外反、後部コナテ+寛削り
2	環	12.1	(4.2)		A1	A	E	20	埋土	口唇外反、後部棒状工具+寛削り、器内厚い
3	環	12.0	(3.6)		A1	A	C	25	埋土	内面外反、後部棒状工具+寛削り、摩滅顯著
4	環	12.1	(4.0)		A1	A	B	40	埋土	口縁内湾、後部コナテ+寛削り、摩滅顯著
5	環	12.0	4.1		A1	A	C	40	埋土	口縁外反、後部棒状工具+寛削り
6	環	12.2	3.8		A1	A	C	30	埋土	口縁外反、後部棒状工具+寛削り
7	環	11.5	4.7		A2	A	C	40	埋土	口縁小さく外傾、後部棒状工具+寛削り
8	環	12.6	4.6		A2	A	B	50	埋土	口縁小さく外反、後部棒状工具+寛削り
9	環	13.2	(3.8)		A1	A	A	25	埋土	段部沈線、後部棒状工具+寛削り
10	環	13.2	(3.8)		A1	A	A	30	埋土	段部沈線、後部棒状工具+寛削り
11	環	13.0	4.5		C1	B	A	40	埋土	口唇肥厚、段部沈線、後部工具ナテ+寛削り
12	環	15.2	(2.8)		A1	B	A	25	埋土	段部沈線、後部棒状工具+寛削り、黒斑
13	環	(12.0)	(3.7)		A1	A	A	20	カマド	砂質、口縁内湾、後部棒状工具+寛削り
14	環	(13.0)	(3.7)		C1	B	A	25	埋土	口縁内傾、後部工具ナテ+寛削り
15	小形壺	10.2	(4.5)		A2	B	C	30	埋土	口唇肥厚、頸部以下横溝削り
16	小形壺	11.2	(3.8)		A1	B	E	50	埋土	口唇やや肥厚、頸部以下横溝削り
17	高環		(8.3)		A1	B	C	60	埋土	長脚
18	鉢	20.0	(9.9)		AE1	A	C	25	Na 1	段部沈線、頸部以下横溝、斜め寛削り
19	甕	(18.0)	(7.0)		AE5	B	B	10	埋土	口縁屈曲外反、頸部以下縦溝削り、黒斑
20	甕	(18.0)	(7.4)		E5	A	A	10	埋土	口縁外反、頸部縦溝削りによる段
21	甕	21.5	(15.0)		AE5	A	E	60	Na 2	口唇肥厚、頸部縦溝削りによる段、器内厚い
22	甕底部		(2.2)	(7.0)	E2	A	B	40	埋土	平底、底面木炭灰
24	土錘	長径(3.8)×最大径1.9×孔径0.5(cm)、重量10.5g								

第151号住居跡（第170図）

本住居跡はK3M8グリッド付近に位置し、カマド煙道部のみ遺存する住居跡である。

平面形等の詳細は不明。第100号住居跡によって切られるが、同住居跡のカマド付け替えの可能性が大きい。

煙道部底面は概ね外方に向かって傾斜する。規模は1.52×0.38m、深さ16cmを測り、カマド軸方位はN-69°-Eを測る。

遺構実測風景▶



8. 第8住居跡群

第172図 第8住居跡群

第70号住居跡 (第174図)

本住居跡はK3K13グリッド付近に位置し、カマド燃焼部底面のみ残存した住居跡である。第72号住居跡確認面で検出され、燃焼部は径50cm程の略楕円形をなし、赤変硬化が顕著である。

第71号住居跡 (第173、174図)

本住居跡はK3L14グリッド付近に位置し、住居跡が最も密集する地点に存在する。

第8住居跡群の北西部、第4住居跡群との境界に存在する小形の住居跡である。

新田関係は本住居跡は第70号住居跡とともに周辺部分で最も新しい段階に属すると考えられる。

平面形はやや歪みのある方形乃至台形状で、規模は4.11×4.08m、深さ50cmを測る。

主軸方位はN-60°-Eを測る。

床面はほぼ平坦で全体に硬質。

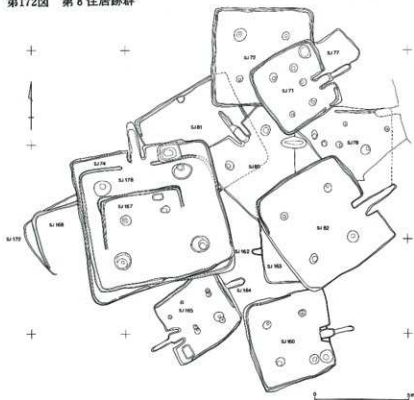
掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。

壁は僅かに傾斜するが、掘り込みは深くしっかりしている。カマド壁はカマド部分で僅かに段をなす。

壁溝はカマド部分と南壁の一部を除いて設置され、幅15cm程で掘り込みは比較的しっかりしている。

柱穴は4本で、P3が小さい他はいずれも径40cm前後の大形である。深さは4本とも40cm程である。

柱穴配置は扁平な長方形配置をなす。柱穴間隔は



P1P2、P3P4が1.25m、P2P3、P1P4が2.07mを測る。

貯蔵穴はカマド左側北隅部分に位置し、規模は0.70×0.62mを測り、略楕円形を呈する。

カマドは東壁やや南よりに設置される。

燃焼部は底面から側面が比較的良く焼けており、遺存状態は良好である。箱形をなし、規模は0.46×1.20m、深さ0.41mを測る。燃焼部奥壁から段をなして煙道部へ移行する。

煙道部底面は壁外に向かって緩く立ち上がる。規模は1.20×0.34mを測る。

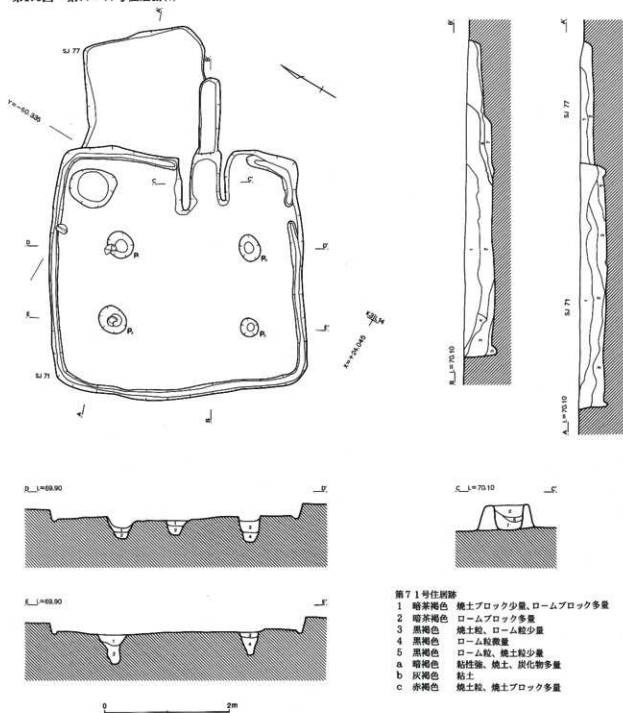
左袖部分は少ビットが存在しカマド壁をわずかに掘り込んでいる。両袖とも暗褐色粘質土を主体にして構築される。

土師器、須恵器以外に編物石が2個体出土している。

第71号住居跡出土遺物観察表

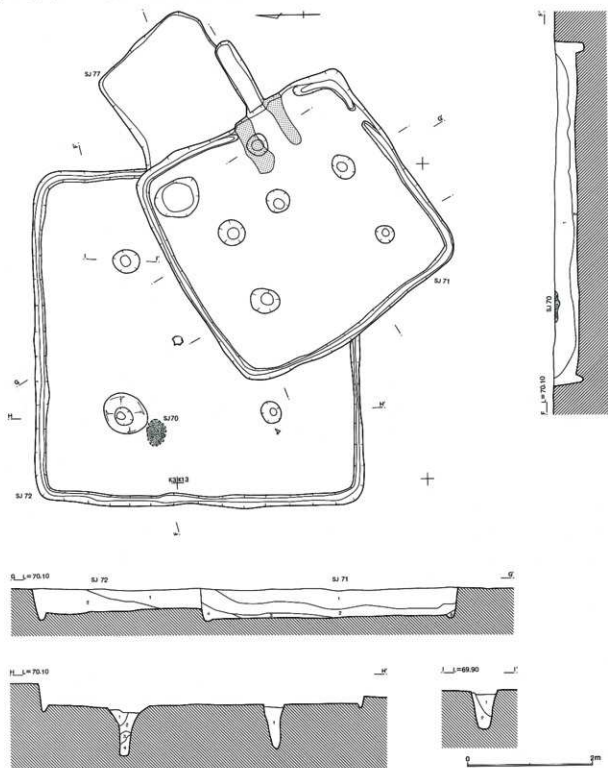
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	環	12.0	(3.6)		A1	A	C	25	埋土	段部ヨコナテ、後部工具ナテ+笥削り
2	環	11.8	(4.1)		A1	A	E	40	埋土	口縁外反、後部ヨコナテ+笥削り、器内厚い
3	環	(12.0)	(3.8)		A1	B	B	25	埋土	口唇肥厚、後部ヨコナテ+笥削り、内面黒色
4	環	(13.4)	(3.8)		A1	A	B	30	埋土	口縁やや外反、後部ヨコナテ+笥削り
5	環	(14.0)	(4.5)		A1	A	F	25	埋土	砂質、段部工具ナテ、後部工具ナテ+笥削り

第173図 第71・77号住居跡(1)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
7	甕底部		(3.2)	6.3	AD5	B	B	80	埋土	平底篋削り、器肉厚い
8	甕底部		(3.0)	5.7	AE5	B	C	60	埋土	中央やや上げ底、篋削り、器肉厚い
9	甕	(16.0)	(6.0)		AE2	B	B	10	埋土	口縁外反、頸部以下縦篋削り
10	甕	22.0	(8.0)		E5	A	E	20	埋土	口縁内縮、頸部段以下横篋削り
11	甕	(18.5)	(6.8)		F2	B	F	10	埋土	口縁外反、頸部以下縦篋削り、器肉厚い
12	甕胴部		(17.0)	(5.0)	AE5	A	B	30	埋土	外面縦篋削り、輪積み底
13	須恵甕	(24.2)	7.2		D1	A	J	30	埋土上層	ロクロ石? 回転、10本/1.7cm

第174図 第71・77号住居跡(2)、第72号住居跡



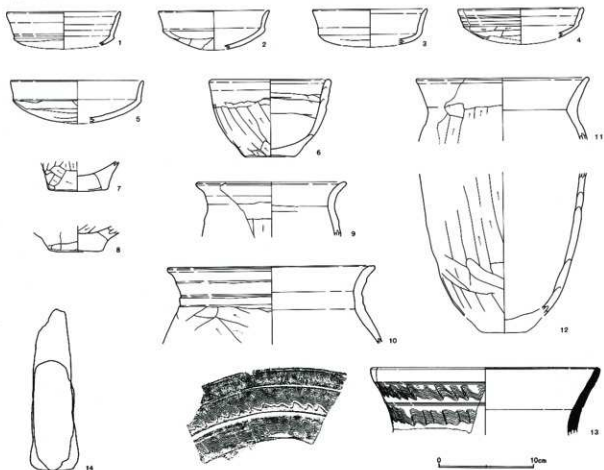
第77号住居跡

- 1 黒褐色 砂質、焼土粒、ローム粒少量
- 2 黒褐色 焼土粒、ローム粒、ロームブロック少量

柱穴土層柱

- 1 黒褐色 焼土粒、ローム粒少量
- 2 暗茶褐色 粘性強、焼土粒、ロームブロック多量
- 3 暗茶褐色 焼土粒、ローム粒少量
- 4 暗茶褐色 粘性強、焼土粒微量、ロームブロック

第175図 第71号住居跡出土遺物



第77号住居跡 (第173、174図)

K3K14 グリッド付近に位置する。第71号住居跡の東側に存在し同住居跡によって切られるが、第72号住居跡との新旧関係は不明である。第4住居跡群に属する第64号住居跡とは境を接している。

平面形は長方形で、規模は2.07×2.04 (現在長) m、深さ20cmを測る。主軸方位はN-59.5°-Eを測る。ごく小形であり、竪穴状遺構とも考えられる。

出土遺物はない。

第72号住居跡 (第174図)

本住居跡は K3K13-14グリッド付近に位置する。

第8住居跡群の北端部に位置し、東、西、北側は若干の遺構空白域で第4～6住居跡群との境界域をなしている。

新旧関係は本住居跡が第80、81号住居跡を切り、第

71号住居跡によって切られる。

平面形は南東部分が重複により不明確であるが、略方形と考えられる。規模は5.42×5.27m、深さ40cmを測る。

主軸方位はカマドの推定位置からN-Sと考えられる。

床面は周辺部がやや凹凸が認められ、全体に硬質である。掘り方は存在せず、貼り床も検出できなかった。床面出土遺物は少量である。

壁は僅かな傾斜をもち、掘り込みはしっかりしている。

壁溝は現状では一周するが、第71号住居跡との重複部分では、精査にもかかわらず検出できなかった。全体に幅狭く、掘り込みはしっかりしている。

柱穴はP4を含めて4本と考えられる。

P2以外は径40cm前後で一定している。P2は上部が径70cm程に大きく掘り込まれる。

第176图 第72号住居跡出土遺物(1)

